

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年3月30日

【事業年度】 第39期（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

【会社名】 アライドテレスホールディングス株式会社

【英訳名】 ALLIED TELESIS HOLDINGS K.K.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 サチエ オオシマ

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田七丁目21番11号

【電話番号】 03(5437)6000

【事務連絡者氏名】 経理部長 海老原 聡

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田七丁目21番11号

【電話番号】 03(5437)6000

【事務連絡者氏名】 経理部長 海老原 聡

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

| 回次                    |      | 第35期          | 第36期          | 第37期          | 第38期          | 第39期          |
|-----------------------|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 決算年月                  |      | 2021年12月      | 2022年12月      | 2023年12月      | 2024年12月      | 2025年12月      |
| 売上高                   | (千円) | 33,265,424    | 41,497,564    | 44,385,722    | 48,458,725    | 49,950,064    |
| 経常利益                  | (千円) | 969,072       | 2,982,570     | 1,921,905     | 3,727,389     | 3,799,731     |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益   | (千円) | 1,370,347     | 8,605,491     | 1,089,984     | 3,601,588     | 2,919,832     |
| 包括利益                  | (千円) | 1,881,972     | 9,448,810     | 1,699,737     | 4,386,519     | 3,018,126     |
| 純資産額                  | (千円) | 6,201,455     | 15,768,237    | 17,467,974    | 19,451,608    | 21,333,639    |
| 総資産額                  | (千円) | 28,883,095    | 41,636,820    | 45,495,290    | 46,486,505    | 48,728,852    |
| 1株当たり純資産額             | (円)  | 55.92         | 143.32        | 158.81        | 180.58        | 203.12        |
| 1株当たり当期純利益            | (円)  | 12.49         | 78.42         | 9.93          | 32.97         | 27.55         |
| 潜在株式調整後<br>1株当たり当期純利益 | (円)  | -             | -             | -             | -             | -             |
| 自己資本比率                | (%)  | 21.2          | 37.8          | 38.3          | 41.8          | 43.8          |
| 自己資本利益率               | (%)  | 26.4          | 78.7          | 6.6           | 19.5          | 14.3          |
| 株価収益率                 | (倍)  | 8             | 1             | 10            | 3             | 9             |
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー  | (千円) | 2,539,609     | 8,406,736     | 74,368        | 5,743,088     | 6,747,143     |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー  | (千円) | 423,308       | 1,454,565     | 967,435       | 2,875,238     | 537,324       |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー  | (千円) | 1,624,442     | 4,245,079     | 2,584,921     | 5,439,112     | 3,339,244     |
| 現金及び現金同等物の<br>期末残高    | (千円) | 4,717,610     | 9,051,663     | 10,700,515    | 14,259,346    | 17,029,080    |
| 従業員数<br>(外、平均臨時雇用者数)  | (人)  | 1,807<br>(55) | 1,792<br>(70) | 1,850<br>(85) | 1,879<br>(88) | 1,856<br>(67) |

- (注) 1 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第36期の期首から適用しており、第36期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 2 第35期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。第36期、第37期、第38期及び第39期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第39期の期首から適用しており、第38期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準については第20 - 3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用し、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)については第65 - 2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、第39期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

| 回次                       |      | 第35期        | 第36期        | 第37期        | 第38期        | 第39期        |
|--------------------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 決算年月                     |      | 2021年12月    | 2022年12月    | 2023年12月    | 2024年12月    | 2025年12月    |
| 売上高及び営業収益                | (千円) | 4,276,794   | 5,358,612   | 5,357,203   | 5,689,019   | 5,677,948   |
| 経常利益又は<br>経常損失( )        | (千円) | 967,456     | 838,529     | 7,709,511   | 72,321      | 1,778,701   |
| 当期純利益又は<br>当期純損失( )      | (千円) | 502,298     | 1,294,931   | 8,347,799   | 1,589,055   | 1,989,153   |
| 資本金                      | (千円) | 10,019,161  | 10,019,161  | 10,019,161  | 10,019,161  | 10,019,161  |
| 発行済株式総数                  | (株)  | 109,731,545 | 109,731,545 | 109,731,545 | 109,731,545 | 105,012,176 |
| 純資産額                     | (千円) | 1,845,988   | 3,117,019   | 11,464,818  | 12,744,134  | 13,597,191  |
| 総資産額                     | (千円) | 14,471,238  | 18,271,246  | 21,848,653  | 23,086,402  | 25,359,380  |
| 1株当たり純資産額                | (円)  | 16.61       | 28.41       | 104.48      | 118.31      | 129.48      |
| 1株当たり配当額                 | (円)  | -           | -           | 1.00        | 6.00        | 8.00        |
| (内、1株当たり中間配当額)           | (円)  | (-)         | (-)         | (-)         | (-)         | (-)         |
| 1株当たり当期純利益<br>又は当期純損失( ) | (円)  | 4.58        | 11.80       | 76.08       | 14.55       | 18.77       |
| 潜在株式調整後<br>1株当たり当期純利益    | (円)  | -           | -           | -           | -           | -           |
| 自己資本比率                   | (%)  | 12.6        | 17.1        | 52.5        | 55.2        | 53.6        |
| 自己資本利益率                  | (%)  | -           | 52.4        | 114.5       | 13.1        | 15.1        |
| 株価収益率                    | (倍)  | -           | 9           | 1           | 7           | 14          |
| 配当性向                     | (%)  | -           | -           | 1.3         | 41.2        | 42.6        |
| 従業員数                     | (人)  | 40          | 33          | 39          | 38          | 43          |
| (外、平均臨時雇用者数)             | (人)  | (-)         | (-)         | (-)         | (-)         | (-)         |
| 株主総利回り                   | (%)  | 112.7       | 110.0       | 141.1       | 169.9       | 213.2       |
| (比較指標：配当込みTOPIX)         | (%)  | (3,179.28)  | (3,101.25)  | (3,977.63)  | (4,791.22)  | (6,010.98)  |
| 最高株価                     | (円)  | 161         | 133         | 138         | 118         | 297         |
| 最低株価                     | (円)  | 83          | 84          | 95          | 63          | 100         |

(注) 1 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第36期の期首から適用しており、第36期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 第38期の1株当たり配当額には、特別配当4.0円を含んでおります。

3 第35期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。第36期、第37期、第38期及び第39期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第35期の自己資本利益率及び株価収益率は、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

5 最高・最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第二部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。

6 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第39期の期首から適用しており、第38期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準については第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、第39期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2 【沿革】

当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）の経緯は以下のとおりであります。

| 年月       | 概要   |
|----------|--|
| 1987年3月  | システム・プラス株式会社が設立され、LAN製品の開発、販売を開始   |
| 1987年9月  | アライドテレシス株式会社に社名変更  |
| 1987年10月 | アメリカに Allied Telesyn International Corp. (現 Allied Telesis, Inc.)を設立   |
| 1991年1月  | ドイツに Allied Telesyn International GmbH (現 Allied Telesis International GmbH)を設立  |
| 1991年2月  | シンガポールに Allied Telesyn International (Asia) Pte. Ltd. (現 Allied Telesis International (Asia) Pte. Ltd.)を設立                       |
| 1995年3月  | オランダに Allied Telesyn International B.V. (現 Allied Telesis International B.V.)を設立   |
| 1995年6月  | オーストラリアに Allied Telesyn International (Australia) Pty. Ltd. (現 Allied Telesis International (Australia) Pty. Ltd.)を設立            |
| 1995年10月 | 香港に Allied Telesyn International (Hong Kong) Ltd. (現 Allied Telesis (Hong Kong) Ltd.)を設立   |
| 1997年5月  | 中国に Allied Telesis (China) Ltd. を設立  |
| 2000年7月  | 東京証券取引所市場第二部に上場（証券コード：6835）  |
| 2000年8月  | ニュージーランドに開発拠点 Allied Telesyn Research Ltd. (現 Allied Telesis Labs Ltd.)を設立   |
| 2001年3月  | 品質マネジメントシステムの国際規格「ISO 9001」認証をシンガポールの製造拠点Allied Telesis International (Asia) Pte. Ltd. において取得                                    |
| 2001年6月  | 環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格「ISO14001」認証をシンガポールの製造拠点Allied Telesis International(Asia) Pte. Ltd. において取得                                |
| 2001年10月 | アメリカに開発拠点 Allied Telesyn Networks Inc. (Allied Telesis Labs Inc.に社名変更)を設立  |
| 2002年2月  | スペインに Allied Telesyn International S.L.U. (現 Allied Telesis International S.L.U.)を設立   |
| 2002年5月  | 中国にAllied Telesis (Dongguan) Ltd. を設立  |
| 2002年7月  | 品質マネジメントシステムの国際規格「ISO 9001」認証を中国の製造拠点Allied Telesis (Dongguan) Ltd. において取得(現在はAllied Telesis (Dongguan) Electronic Co. Ltd.にて更新) |
| 2002年10月 | ニュージーランドに Allied Telesyn New Zealand Ltd. (現 Allied Telesis New Zealand Ltd.)を設立   |
| 2004年2月  | 環境マネジメントシステム(EMS)認証「ISO 14001」を中国の製造拠点 Allied Telesis (Dongguan) Ltd. で取得(現在はAllied Telesis (Dongguan) Electronic Co. Ltd.にて更新)  |
| 2004年7月  | 持株会社制移行に伴いアライドテレシス株式会社をアライドテレシスホールディングス株式会社に社名変更<br>新会社、アライドテレシス株式会社、株式会社アライドテレシス開発センター（後 株式会社アライドテレシス総合研究所）を設立                  |
| 2004年7月  | 香港に Allied Telesyn Hong Kong Ltd. (現 Allied Telesis Sales & Marketing (Hong Kong) Ltd.)を設立                                       |
| 2004年11月 | 香港に Allied Telesyn Asia Pacific Ltd. を設立   |
| 2004年12月 | シンガポールに Allied Telesyn South Asia Pte. Ltd. (現 Allied Telesis Asia Pacific Pte. Ltd.) を設立  |
| 2005年3月  | アライドテレシスホールディングス株式会社が、株式交換によりルート株式会社を完全子会社化  |
| 2005年5月  | アメリカに Allied Telesyn Capital Corp. (現 Allied Telesis Capital Corp.)を設立   |
| 2007年1月  | アメリカ空軍 横田基地にてIPトリプルプレイ・サービスの提供を開始  |
| 2008年2月  | 日本国内各社で情報セキュリティマネジメントシステム認証「ISO/IEC 27001」を取得  |
| 2008年3月  | 日本国内各社で環境マネジメントシステム(EMS)認証「ISO 14001」を取得   |

| 年月       | 概要   |
|----------|--|
| 2011年4月  | ルーマニアに Allied Telesis International Support & Education Center s.r.l. を設立                            |
| 2011年6月  | 中国に Allied Telesis (Dongguan) Electronic Co. Ltd.を設立し、Allied Telesis (Dongguan) Ltd. の生産設備を移管        |
| 2011年7月  | タイに Allied Telesis (Thailand) Co., Ltd. を設立  |
| 2011年9月  | インドに Allied Telesis India Private Ltd. を設立   |
| 2011年10月 | 株式会社アライドテレシス開発センター（後 株式会社アライドテレシス総合研究所）がルート株式会社を吸収合併   |
| 2012年5月  | メキシコに Allied Telesis Network Solutions, Sociedad de Responsabilidad Limitada de capital variable を設立 |
| 2012年7月  | アライドテレシスキャピタルジャパン株式会社を設立   |
| 2012年9月  | 台湾に開発拠点 Allied Telesis Labs (Taiwan), Inc. を設立   |
| 2012年10月 | マレーシアに Allied Telesis Malaysia Sdn. Bhd. を設立   |
| 2013年6月  | フィリピンに Allied Telesis Philippines Inc. を設立   |
| 2014年1月  | アライドテレシス株式会社のコレガ事業部を分社化し、株式会社コレガを設立  |
| 2014年10月 | イスラエルに Allied Telesis Israel Ltd. (現 Allied Telesis Wireless Ltd.)を設立                                |
| 2014年12月 | Allied Telesis Capital Corp.がAllied Telesis Labs Inc. を吸収合併により経営統合                                   |
| 2016年11月 | インドネシアに PT. Allied Telesis Indonesia を設立   |
| 2017年7月  | ベトナムに Allied Telesis Vietnam Co.,Ltd. を設立  |
| 2022年4月  | 東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第二部からスタンダード市場へ移行  |
| 2022年10月 | 代表取締役会長兼社長にサチエ オオシマが就任   |
| 2024年7月  | アライドテレシス株式会社がアライドテレシスキャピタルジャパン株式会社、株式会社アライドテレシス総合研究所及び株式会社コレガを吸収合併により経営統合                            |

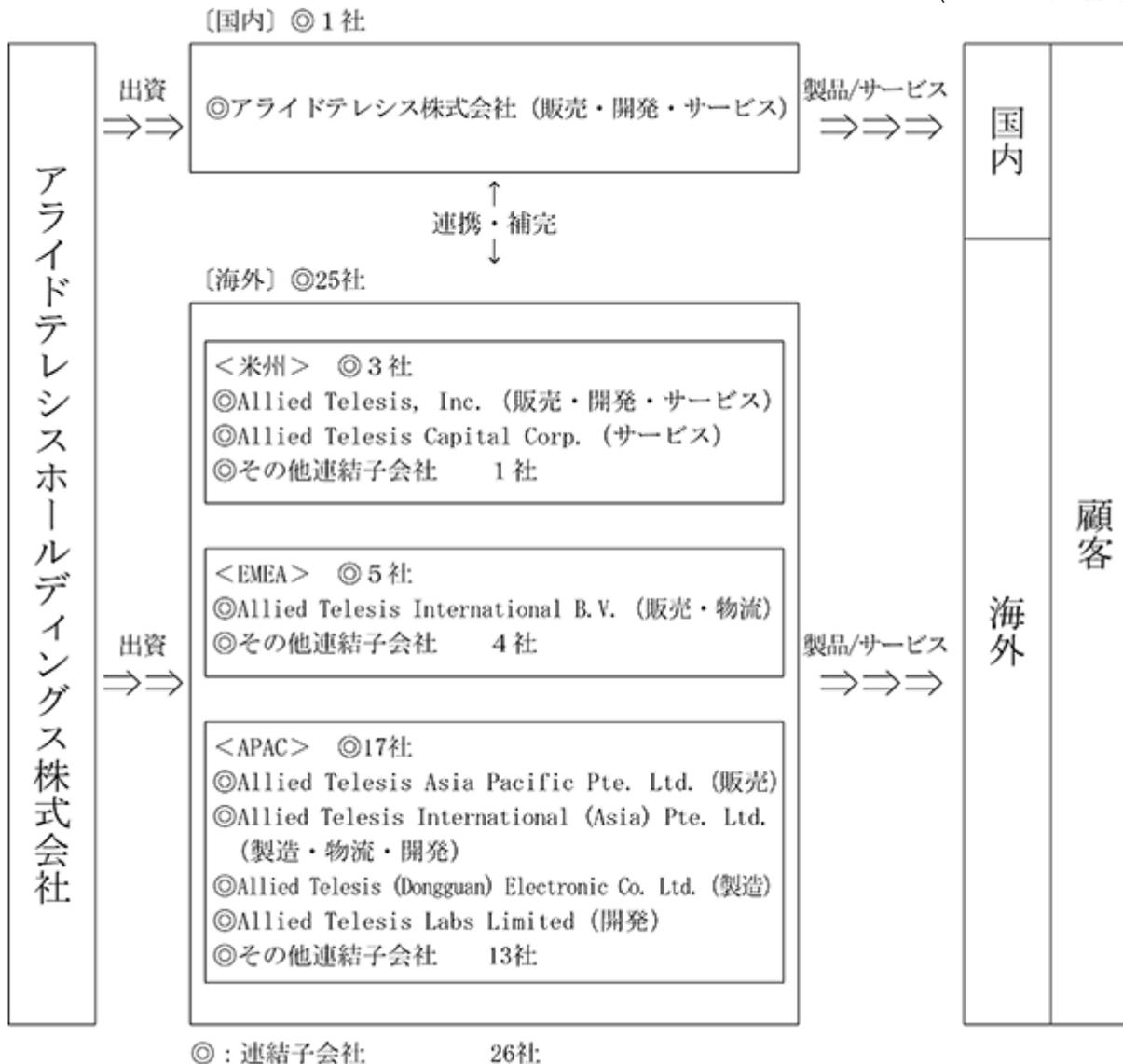
### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社の計27社で構成されており、日本、米州、EMEA及びAPACにて情報通信及びネットワーク関連製品の研究開発、製造及び販売を主な事業としております。

なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

〔事業の系統図〕

(2025年12月31日現在)



## 4 【関係会社の状況】

| 名称  | 住所                          | 資本金又は<br>出資金            | 主要な事業の<br>内容                | 議決権の所有<br>(被所有)割合 |              | 関係内容  |
|---|-----------------------------|-------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------|---|
|   |                             |                         |                             | 所有割合<br>(%)       | 被所有割合<br>(%) |   |
| (連結子会社)<br>アライドテレシス株式会社<br>(注)1,4                     | 東京都品川区                      | 千円<br>1,987,000         | ネットワーク製<br>品の開発、販<br>売、保守   | 100.0             | -            | 役員の兼任等...有  |
| Allied Telesis<br>International(Asia)<br>Pte.Ltd.(注)1 | Singapore                   | 千シンガポール<br>ドル<br>19,583 | ネットワーク製<br>品の製造、物流<br>統括、開発 | 100.0             | -            | 役員の兼任等...無  |
| Allied Telesis<br>(Hong Kong)Ltd.(注)1                 | 香港<br>中国                    | 千米ドル<br>30,012          | ネットワーク製<br>品の製造、物流<br>統括    | 100.0             | -            | 役員の兼任等...無  |
| Allied Telesis, Inc.<br>(注)5                          | San Jose<br>U.S.A.          | 千米ドル<br>18              | ネットワーク製<br>品の開発、販売          | 94.8              | -            | 役員の兼任等...有  |
| Allied Telesis<br>International B.V.<br>(注)2          | Hoofddorp<br>Netherlands    | 千ユーロ<br>18              | ネットワーク製<br>品の販売、物流<br>統括    | 100.0<br>[100.0]  | -            | Allied Telesis, Inc.の子会社<br>役員の兼任等...無                |
| Allied Telesis<br>Capital Corp.(注)1                   | San Jose<br>U.S.A.          | 千米ドル<br>43,500          | ネットワー<br>ク<br>サービス          | 100.0             | -            | 役員の兼任等...有  |
| Allied Telesis<br>Asia Pacific Pte. Ltd.<br>(注)2      | Singapore                   | 千米ドル<br>350             | ネットワーク製<br>品の販売             | 100.0<br>[100.0]  | -            | Allied Telesyn<br>Asia Pacific Ltd.の子会社<br>役員の兼任等...無 |
| Allied Telesis<br>(Dongguan)Electronic<br>Co.Ltd.(注)2 | 広東省<br>東莞市<br>中国            | 千人民元<br>17,374          | ネットワーク製<br>品の製造             | 100.0<br>[100.0]  | -            | Allied Telesis(Hong Kong)Ltd.の<br>子会社<br>役員の兼任等...無   |
| Allied Telesis Labs Ltd.                              | Christchurch<br>New Zealand | 千NZドル<br>5,280          | ネットワーク製<br>品の開発             | 100.0             | -            | 役員の兼任等...有  |
| Allied Telesis Wireless<br>Ltd.(注)3                   | Israel                      | 千米ドル<br>40              | ネットワーク製<br>品の開発             | 100.0             | -            | 役員の兼任等...有  |
| Allied Telesis (China)<br>Ltd.(注)3                    | 北京市<br>中国                   | 千人民元<br>20,678          | ネットワーク製<br>品の販売             | 100.0             | -            | 役員の兼任等...無  |
| その他15社  | -                           | -                       | -                           | -                 | -            | -   |

(注)1 特定子会社に該当しております。

2 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の[内書]は間接所有であります。

3 債務超過会社であり、債務超過額は2025年12月末時点で下記のとおりとなっております。

Allied Telesis Wireless Ltd. 4,158,949千円

Allied Telesis (China) Ltd. 1,300,806千円

4 アライドテレシス株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報

(1) 売上高 33,263,331千円

(2) 経常利益 2,944,703千円

(3) 当期純利益 2,080,789千円

(4) 純資産額 4,968,472千円

(5) 総資産額 20,521,907千円

5 Allied Telesis, Inc.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報

(1) 売上高 10,981,864千円

(2) 経常利益 194,804千円

(3) 当期純利益 131,396千円

(4) 純資産額 30,234千円

(5) 総資産額 9,178,250千円

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

(2025年12月31日現在)

| セグメントの名称  | 従業員数(人)    |
|-----------|------------|
| 日本        | 938 (44)   |
| 米州        | 181 (2)    |
| EMEA(注) 1 | 91 (0)     |
| APAC(注) 2 | 646 (21)   |
| 合計        | 1,856 (67) |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア。

3 従業員数は就業員数であり、パート及び嘱託社員等は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

## (2) 提出会社の状況

(2025年12月31日現在)

| 従業員数(人) | 平均年齢  | 平均勤続年数 | 平均年間給与(千円) |
|---------|-------|--------|------------|
| 43(-)   | 45.9歳 | 16年1か月 | 9,539      |

(注) 1 従業員数は就業員数であり、パート及び嘱託社員等は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、2025年1月1日から2025年12月31日までの平均年間給与額であり、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておませんが、労使関係は良好であります。

## (4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

## 提出会社

提出会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(2015年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(1991年法律第76号)の規定に基づく開示をしておりませんので、記載を省略しております。

## 連結子会社

| 当事業年度       |                            |                          |         |              |                         |         |              |
|-------------|----------------------------|--------------------------|---------|--------------|-------------------------|---------|--------------|
| 名称          | 管理職に占める女性労働者の割合(%)<br>(注1) | 男性労働者の育児休業取得率(%)<br>(注2) |         |              | 労働者の男女の賃金の差異(%)<br>(注1) |         |              |
|             |                            | 全労働者                     | 正規雇用労働者 | パート<br>有期労働者 | 全労働者                    | 正規雇用労働者 | パート<br>有期労働者 |
| アライドテレシス(株) | 9.3                        | 73.3                     | 73.3    | -            | 60.9                    | 62.5    | 63.7         |

(注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(2015年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(1991年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(1991年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

本項に記載する経営方針及び中長期的な経営戦略は、2028年を最終年度とする中期経営計画に基づき策定されたものであり、同計画において掲げた基本方針及び重点施策の方向性を反映しています。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、先端技術とインテグリティを軸とした企業活動を通じて持続的な価値創出を目指すことを基本方針とし、ネットワーク関連事業を展開しております。ネットワーク機器の専門メーカーとして培ってきた技術力・ブランド力を基盤に、製品及び運用・サービスの高度化を通じて、セキュリティを含むITインフラ全体の価値向上を支援するソリューション型ビジネスへの進化を進めております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、財務の健全性を維持しつつ持続的な成長を実現するため、売上高成長率及び営業利益率を重要な経営指標として位置付けております。2028年を最終年度とする中期経営計画においては、利益を伴う売上成長と規律ある研究開発投資を両立させ、企業価値の継続的な向上を目指しております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、2028年を見据えた中期経営計画において、「持続的成長」「人的資本投資」「株主還元」の三本の柱を中核とした経営戦略を推進しております。

**持続的成長：**利益を伴う売上成長を達成するため、市場ニーズを的確に反映した研究開発を継続し、付加価値の高い製品・サービスを提供します。また、AIを本格導入することにより、社員一人ひとりが付加価値の高い業務に注力出来る環境を構築し、コスト構造を改善してまいります。

**人的資本投資：**人材を最も重要な経営資源の一つと位置付け、長期的な企業価値向上を支える基盤として、人的資本への投資を継続的に強化してまいります。具体的には、社員一人ひとりの専門性及び能力の向上を図るための施策を充実させ、多様な人材がそれぞれの強みを発揮できる環境整備を進めてまいります。また、グローバルに事業を展開する企業として、国や地域の枠を超えた人材の活躍を促進するとともに、ダイバーシティの推進や柔軟な働き方への対応を通じて、持続的な成長を支える組織の構築を目指します。あわせて、企業価値向上への貢献が適切に評価される報酬制度を整備します。

**株主還元：**持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するためには、株主の皆様との信頼関係をベースとした適切な株主還元が重要であり、財務の健全性及び将来の事業投資とのバランスを踏まえながら、安定的かつ継続的な株主還元の実施に努めてまいります。

具体的には、配当を中心とした株主還元を基本としつつ、経営環境や資本効率等を総合的に勘案しながら、機動的な施策の検討を行ってまいります。あわせて、IR活動を充実させ、経営方針や成長戦略に関する情報発信を強化し、株主及び投資家との建設的な対話を重ねることで、長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

#### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループが属する情報通信機器業界では、デジタル化の進展やAI技術の進化を背景に、ネットワークの高度化、セキュリティ強化、運用の効率化が強く求められております。これらの市場ニーズを的確に捉えるとともに、原材料調達やサプライチェーンの安定化、人材確保及びガバナンス強化が重要な経営課題と認識しております。当社グループは、組織改革、在庫集約、非コア事業の見直し等を通じて経営基盤の強化を進め、変化の大きい事業環境においても持続的な成長を実現してまいります。

## 2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、以下のとおりであります。  
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

### (1) サステナビリティに関する基本的な考え方

当社グループは、先端技術とインテグリティを軸とした企業活動を通じて持続的な価値創出を目指し、持てるテクノロジーと創造力を環境保全に配慮した製品や技術の開発に役立て社会の持続的発展に寄与することを基本方針としています。本方針に基づき、日本国内各社、シンガポール及び中国の工場を対象にISO 14001を取得し、環境マネジメントシステムの構築・推進を通じて、社内での環境意識の浸透に努めており、今後さらにその推進に取り組んでまいります。

なお、当社グループのサステナビリティに関する具体的な取組については当社ホームページ 環境保全活動説明資料 (<https://www.allied-telesis.co.jp/company/environment/>) に記載の通りです。

### (2) サステナビリティに関する取組の状況

#### ガバナンス

当社は、サステナビリティに関する重要な事項について、取締役会が監督する体制としております。取締役会は優先的に取り組むべき重要課題を踏まえて、個別の施策の状況を監督しておりますが、事業環境等の変化に応じて見直しを行うこととしております。

#### リスク管理

サステナビリティ関連のリスク及び機会を識別し管理するため、リスクマネジメント体制を整えてまいります。関連するリスクについては、内部監査部門、総務部、各地域責任者が連携しており、認識されたリスクの内容は、監査等委員会へ報告し、重要なリスクについては、取締役会へ報告するとともに、その対応を検討してまいります。

### (3) 人的資本

#### 戦略

人材の育成及び社内環境整備に関する方針、戦略

当社グループでは、「組織力」と「人材力」の両方を高めるために、多様性確保を含む人材の採用と育成を重要な課題であると考えております。

また、今後の更なる成長戦略として、ダイバーシティの推進を重要経営課題と捉えています。多様性を尊重し、誰もが自分らしく活躍できる企業文化の醸成を目指します。

具体的な取組内容は、下記の通りです。

- ・企業風土の醸成  
社員一人ひとりがダイバーシティの重要性を理解し、多様な人材が活躍できる企業風土を醸成します。
- ・多様な人材の活躍推進  
人種、宗教、性別、年齢、性的指向、障がいの有無、国籍、その他の特性にとらわれず、多様な人材の採用・育成・登用を推進します。
- ・キャリア形成と能力開発の支援  
個人がもつ能力と個性の発揮を促すため、社員一人ひとりのキャリア形成と能力開発を支援します。
- ・両立支援の充実  
社員の様々な事情にあわせ、多様で柔軟な働き方ができるよう両立支援を充実します。

また、ダイバーシティ推進活動の一環として女性の活躍推進に注力しています。すべての女性社員が自分らしく活躍できる職場環境の醸成を目指し、「WINGS PROJECT」として様々な取組を実施しております。

## 指標及び目標

人材の育成及び社内環境整備に関する方針に関する指標の内容並びに当該指標を用いた目標及び実績、指標及び目標

社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員全員が働きやすい環境をつくり、個人の能力を十分に発揮できるようにするため、行動計画を策定しております。

また、当社グループでは、項番 において記載した、人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針に係る指標について、関連する指標のデータ管理とともに、具体的な取り組みが行われているものの、連結グループに属するすべての会社では行われていないため、連結グループにおける記載が困難であります。このため、次の指標に関する目標及び実績は、連結グループにおける主要な事業を営む国内子会社のものを記載しております。

| 指標            | 目標                  | 実績(当連結会計年度) |
|---------------|---------------------|-------------|
| 男性育児休業取得率 (注) | 2027年12月期までに80.0%以上 | 73.3%       |

(注)男性の育児休業取得率(%) = 「育児休業をした男性労働者数」 ÷ 「配偶者が出産した男性労働者数」 × 100

### 3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。ただし、これらのリスクは必ずしも全てのリスクを網羅したものでなく、記載された以外にも重要性が低いと考えられるリスクや想定していないリスクも存在します。

なお、記載事項のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において入手可能な情報に基づいて、当社グループが判断したものであります。

#### 政治・経済情勢に関するリスク

当社グループは19か国に連結子会社を有し事業を展開しております。各国・地域の政治・経済情勢の変化により、特定の国・地域での生産及び販売に支障が出た場合又は需要の急減等の事態が発生した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、グループ内での情報収集や第三者機関を通じた政治・経済情勢の変化及び政策変更等をモニターすることにより、これらリスクの兆候を早期に把握し対応する体制を取っております。また、生産拠点や販売拠点を分散することにより、特定の国・地域への依存を回避し、リスクの低減に努めております。

#### 調達に関するリスク

当社グループの製品には多数の精密電子部品（IC、メモリー、光デバイス等）を使用しており、複数のサプライヤーから調達しております。これらの部品は世界的な需給バランスの影響を強く受ける傾向があり、当社グループが属する業界以外や特定の地域からの需要の増加、災害等による供給の減少、また、特定の国・地域での人件費の高騰等により部品価格が上昇する可能性があります。

当社グループは、これらの部品の安定的な調達のため、調達先の分散並びに関係強化に取り組み、同時に代替品の検討等も進めております。しかしながら、需給バランスの変化等により当社グループの調達に想定を超える支障が出た場合には、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 法規制に関するリスク

各国・地域の安全基準、環境基準及び輸出関連規制等は様々であり、当社グループは、部品サプライヤーに対する安全基準、環境基準の確認、外部機関による監査等を通じ、これらの基準や規制等に適合する製品を提供しております。また、グループ内での情報収集・共有化を図り輸出関連規制の改正による影響を把握し、違法性のモニタリングを通じて必要に応じ取引体制を整備しております。さらに、専門機関の協力を得て、基準や規制の改正情報を早期に把握するように努めております。

しかしながら、予期しない基準や規制等の改正により、製品の製造及び販売に支障が出た場合には、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 品質に関するリスク

当社グループは、製品の企画・開発から、調達、製造、販売、ならびにサポート・サービスに至るまでの一連のバリューチェーン全体を通じて、品質確保及びお客様満足度の向上に取り組んでおります。

具体的には、調達段階においては、調達先に対する認証取得状況や規格適合性、過去の実績及びサポート体制等の事前調査を行い、品質マネジメントシステムに基づく評価により、事前のリスク評価と対策を実施しております。開発及び設計段階では、製品仕様や用途に応じた品質基準を設定し、設計レビューや工程管理を通じて、品質リスクの低減に努めております。製造段階では、工場における工程内検査や出荷前検査等を実施することで、不具合の未然防止及び不良品の流出防止に取り組んでおります。さらに、販売及びサポート・サービス段階においては、お客様との継続的な対話を通じて製品・サービスの使用状況や課題を把握し、不具合の早期発見及び対応に努めるとともに、品質改善へのフィードバックを行っております。加えて、万一の事態に備え、適切な賠償保険への加入を行っております。

しかしながら、これらの対策にもかかわらず、想定を超える問題が生じ、顧客システムの停止等による損害や生命・身体に危険を及ぼすことによる多額の損害賠償責任や事実関係の当否にかかわらず当社グループの社会的信頼の損失などを負った場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 為替に関するリスク

当社グループの連結売上高に占める海外の比率はおおよそ30%～50%で推移しております。また、日本における当社グループの製品等の仕入れは主に米ドル建てで決済しており、為替変動の影響を受け易くなっております。さらに、当社グループは国外18か国で事業を行っているため、研究開発費等の海外の費用についても、為替変動の影響を受け易くなっております。これらの影響を軽減するため、市場リスク管理要領を定め、為替変動による損益インパクトの

感応度分析を行うとともに、必要に応じて為替予約取引等のヘッジを行っております。

しかしながら、すべてのリスクを排除することは困難であり、急激な為替相場の変動が起きた場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 法令遵守に関するリスク

当社グループは、企業倫理規程等のコンプライアンス体制に係る規程を制定し、全役職員が法令、定款及び社会規範を遵守した行動を取るための行動規範として教育等を実施するとともに、各国・地域の特性に応じ、拠点ごとの社内研修等を実施しております。また、コンプライアンス体制の運用評価及び整備・強化・有効性の維持・向上のために必要な諸施策の提言など、組織横断的なリスク状況の監視及び全社的対応を行う統合コンプライアンス委員会を設置するほか、法令上疑義ある行為等について使用人が直接に情報提供を行う手段としてコンプライアンス・ホットラインを設置し、法令遵守の徹底を図っております。

しかしながら、これらの対策を講じても、役職員の故意又は過失により重大な法令違反等が発生し、社会的信用の失墜や損害賠償責任などを負った場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 情報セキュリティに関するリスク

当社グループは、システム構築やサポート・サービスにおいて、お客様や取引先の個人情報あるいは機密情報を入力することがありますが、これらの情報管理において、サイバー攻撃等による不正アクセスや改ざん、データの破壊・紛失・漏洩等が発生する可能性があります。

これらのリスクを回避するため、情報セキュリティ基本方針や個人情報保護方針等の社内ルール の制定、プライバシーマークや情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格であるISO/IEC 27001の認証取得により、役職員の情報セキュリティに関する意識向上を図る教育・啓発活動を実施しております。また、業務データの暗号化やPCのシンクライアント化、外部からの不正アクセスに対する情報システムの構築等の対策を講じております。さらに、適切な損害賠償保険に加入し、万一の事態に備えております。

しかしながら、予測できないサイバー攻撃やコンピュータウイルスの侵入等により、個人情報あるいは機密情報等が漏洩したことにより、多額の損害賠償責任や事実関係の当否にかかわらず当社グループの社会的信頼の損失などを負った場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 知的財産権に関するリスク

製品開発において、当社グループが第三者の知的財産権を侵害するリスク及び当社グループの知的財産権が第三者に侵害されるリスクが存在します。

これらのリスクを回避するため、知的財産権の取得方針と責任者を定め、組織的に管理運用する体制を整備しております。製品の開発段階、出荷前、サービス提供等の各フェーズにおいて入念な調査・確認を実施し、第三者の知的財産権の侵害を回避しております。なお、万一見解の相違等により第三者から知的財産権の侵害を指摘された場合やライセンス条件の変更等に備え、知的財産の専門人材を配置するとともに、弁護士・弁理士等と連携し適切に対応する体制を整えております。また、当社グループは、製品開発の中で多くの技術やノウハウを蓄積し、それらの保護を目的に知的財産権の取得に努めております。しかしながら、一部の国・地域においては、知的財産権の保護制度が不十分な場合があり、第三者が当社グループの知的財産権を使用して類似製品を製造・販売する可能性があります。これらに対応するため、グループ各社で常に情報収集を行い、必要に応じて弁護士・弁理士等と連携し適切に対応する体制を整えております。

しかしながら、リスクに十分に対応できなかった場合や当社グループが認識していない知的財産権が存在し、製品の製造・販売に支障が出た場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 災害等に関するリスク

当社グループが事業展開する国・地域等において地震等の自然災害やテロ等が発生した場合には、各拠点の設備等が壊滅的な被害による操業が中断するだけでなく、修復や代替設備等に関する巨額の費用が発生する可能性があります。

これらの影響を最小限に抑えるため、販売・生産拠点の分散、耐震工事の実施、適正在庫の保持並びに損害保険加入等の施策を講じておりますが、想定を超える災害等が突発的に発生した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 人的資本に係るリスク

当社グループが持続的な成長を遂げるためには、高度な技術を有するエンジニア人材を安定的に採用・確保し続けることが不可欠です。

一方で、IT・デジタル分野を中心にエンジニア人材の需給は逼迫しており、優秀なエンジニア人材の採用をめぐる競争は年々激化しています。当社グループは、このようなリスクへの対応として、国内外においてエンジニア人材の確保に取り組んでいます。具体的には、市場競争力を踏まえた報酬体系の整備、技術系人材のキャリアパスの明確化、リモートワーク等を含む柔軟な働き方の推進、エンジニアが能力を最大限発揮できる開発環境の整備を進めています。

しかしながら、当社グループが求める水準のエンジニア人材を計画どおりに採用・確保し、継続的に雇用できる保証はなく、これらが十分に確保できない場合には、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

## 4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績等の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

#### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の回復を背景に、通年を通して緩やかな回復基調で推移しました。一方、物価上昇やエネルギー価格の高止まり、円安の継続などが個人消費の重荷となり、景気の持続性には懸念が残りました。

世界経済は、緩やかな回復基調で推移した一方、主要国の金融政策を巡る不透明感を背景に、市場の不安定な動きが続きました。さらに、ウクライナ情勢の長期化や中東地域の緊張などの地政学的リスク、米国の通商政策動向による国際貿易の先行き不透明感も相まって、世界経済を取り巻く環境は総じて不確実性の高い状況が続きました。

当社グループが属する情報通信機器業界は、生成AIの普及拡大に伴うデータトラフィック増加を背景に、国内外でデータセンター向けネットワーク機器の需要が引き続き堅調に推移しています。

国内では、自治体・教育分野におけるICT環境の更新需要が高まり、GIGAスクール構想の第2期となる「NEXT GIGA」に向けた設備の更改が進展しつつあります。

海外市場においても、生成AIやクラウドサービスの拡大を背景に、データセンターの増設及び高速・大容量通信インフラへの投資が継続しており、スイッチやルーターなど企業向けネットワーク機器の需要は堅調に推移しています。さらに、サイバー攻撃の高度化を受け、国内外の企業・自治体において不正アクセス防御の強化が進んでおり、ネットワークとセキュリティを一体で捉えた統合的な製品・サービス需要が高まっています。

このように、AI活用の高度化、教育ICTの更新需要に加え、サイバーセキュリティ対策の強化が進む中で、情報通信機器市場は総じて堅調な推移を続けております。

当連結会計年度の業績は、日本での売上が好調となったことから、売上高は499億50百万円（前連結会計年度比3.1%増）となりました。

利益面では、開発費の減少や組織再編による効率化により一部費用は抑制されましたが、米州及びEMEA地域における営業体制強化に伴い人件費が増加した結果、販売費及び一般管理費は増加しました。一方で、売上拡大により売上総利益が着実に伸長し、営業利益は42億28百万円（前連結会計年度比23.5%増）となりました。また、前期は外貨建て資産・負債の評価による為替差益4億97百万円を計上しましたが、今期は同要因による為替差損3億10百万円を計上しました。しかし、営業利益の増加がその影響を吸収し、経常利益は37億99百万円（前連結会計年度比1.9%増）となりました。一方、今期は前期に計上した固定資産売却益16億61百万円の寄与がなく、APAC地域で事業再編損73百万円を計上したことなどから、親会社株主に帰属する当期純利益は29億19百万円（前連結会計年度比18.9%減）となりました。

当連結会計年度における当社グループの所在地別セグメント売上高の概要は以下のとおりです。

#### 日本

日本では、顧客ニーズに対応した高付加価値の提案や大型案件の獲得が進み、売上は総じて堅調に推移しました。市場別では、自治体および教育分野での需要が特に拡大し、成長を牽引しました。製品別では、スイッチ製品群および無線LAN製品の販売が引き続き伸長し、売上増加に寄与しました。この結果、日本での売上高は332億22百万円（前連結会計年度比10.1%増）となりました。

#### 米州

米州では、米連邦政府向け売上が新政策を巡る不確実性や歳出制約、さらに年後半の政府機関閉鎖の影響を受け、減収となりました。一方、米軍基地における居住者向けインターネットサービスの売上は堅調に推移しました。製品別では、連邦政府への売上の減少に伴い、ネットワークインターフェースカードの売上が減少しました。この結果、米州全体での売上高は77億75百万円（前連結会計年度比11.0%減）となりました。

#### EMEA（ヨーロッパ、中東及びアフリカ）

EMEAでは、防衛関連需要の増加を背景に欧州主要国で売上が伸長しました。一方、スペインおよびイタリアでは政府予算の遅れや前期大型案件の反動で減収となったものの、両国以外の販売拠点の増収が全体を下支えしました。製品別では、スイッチ製品群の売上が増加しました。この結果、EMEA全体での売上高は60億38百万円（前連結会計年度比1.1%増）となりました。

#### APAC（アジア・オセアニア）

APACでは、インドを除く各国で進めた事業再編の影響も重なり、地域全体として減収傾向となりました。一方、ベトナム、シンガポール、オーストラリアでは営業活動の効率化や大型案件の獲得が寄与し、堅調に推移しました。製品別では、スイッチ製品群、無線LAN製品の売上が減少しました。この結果、アジア・オセアニア全体での売上高は29億12百万円（前連結会計年度比18.8%減）となりました。

当連結会計年度末の資産合計は487億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億42百万円の増加となりました。流動資産は371億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億58百万円の増加となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が15億10百万円減少した一方で、現金及び預金が27億69百万円増加したことによるものです。また、固定資産は115億50百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億84百万円の増加となりました。これは主に、使用権資産が4億34百万円増加したことによるものです。

当連結会計年度末の負債合計は273億95百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億60百万円の増加となりました。流動負債は225億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億97百万円の増加となりました。これは主に、契約負債が10億43百万円、支払手形及び買掛金が7億53百万円増加したことによるものです。また、固定負債は48億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億37百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金が11億83百万円減少したことによるものです。

当連結会計年度末の純資産合計は213億33百万円となり、前連結会計年度末に比べ18億82百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益を29億19百万円を計上したこと、剰余金の配当6億46百万円、自己株式の消却6億89百万円により利益剰余金が15億83百万円増加したことによるものです。

以上の結果、自己資本比率は43.8%となり、前連結会計年度末より2.0ポイントの上昇となりました。

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ27億69百万円増加となる170億29百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、以下のとおりであります。

##### < 営業活動によるキャッシュ・フロー >

当連結会計年度の営業活動による収入は67億47百万円となり、前連結会計年度に比べ10億4百万円の収入増加となりました。これは主に、棚卸資産の増減額の増加が24億39百万円増加した一方で、売上債権及び契約資産の増減額の減少が26億75百万円増加し、仕入債務の増減額の増加が13億60百万円増加したことによるものです。

##### < 投資活動によるキャッシュ・フロー >

当連結会計年度の投資活動による支出は5億37百万円となり、前連結会計年度に比べ34億12百万円の支出増加となりました。これは主に、有形固定資産の売却による収入が33億69百万円減少したことによるものです。

##### < 財務活動によるキャッシュ・フロー >

当連結会計年度の財務活動による支出は33億39百万円となり、前連結会計年度に比べ20億99百万円の支出減少となりました。これは主に、前連結会計年度において、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出を20億93百万円計上していたことによるものです。

## 生産、受注及び販売の実績

## a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称     | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) | 前年同期比(%) |
|--------------|---|----------|
| 日本(千円)       | -   | -        |
| 米州(千円)       | -   | -        |
| EMEA(注)1(千円) | -   | -        |
| APAC(注)2(千円) | 10,579,822                                | 105.0    |
| 合計(千円)       | 10,579,822                                | 105.0    |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア

3 金額は、製造原価によっております。

当連結会計年度における商品仕入高、委託生産に伴う仕入高及び生産に伴う原材料・部品の仕入高の実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

| セグメントの名称     | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) | 前年同期比(%) |
|--------------|---|----------|
| 日本(千円)       | 7,379,231                                 | 133.8    |
| 米州(千円)       | 1,035,696                                 | 99.8     |
| EMEA(注)1(千円) | 219,353                                   | 51.6     |
| APAC(注)2(千円) | 8,825,273                                 | 110.4    |
| 合計(千円)       | 17,459,555                                | 116.6    |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア。

3 金額は、仕入価額によっております。

## b. 受注実績

当社グループの取扱品目は原則として全てが標準製品でありますので、個別受注生産は行わず、見込み生産を行っております。

## c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称     | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) | 前年同期比(%) |
|--------------|---|----------|
| 日本(千円)       | 33,222,855                                | 110.1    |
| 米州(千円)       | 7,775,416                                 | 89.0     |
| EMEA(注)1(千円) | 6,038,866                                 | 101.1    |
| APAC(注)2(千円) | 2,912,926                                 | 81.2     |
| 合計(千円)       | 49,950,064                                | 103.1    |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア。

3 セグメント間の取引については相殺消去しております。

4 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

| 相手先             | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) |       | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |       |
|-----------------|---|-------|---|-------|
|                 | 金額(千円)                                    | 割合(%) | 金額(千円)                                    | 割合(%) |
| ダイワボウ情報システム株式会社 | 8,196,117                                 | 16.9  | 8,142,547                                 | 16.3  |

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## 連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度の業績は、売上高は499億50百万円（前連結会計年度比3.1%増）、営業利益は42億28百万円（前連結会計年度比23.5%増）、経常利益は37億99百万円（前連結会計年度比1.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、29億19百万円（前連結会計年度比18.9%減）となりました。

## &lt;売上高&gt;

売上高は、年間を通して日本で売上が好調となったことから、前連結会計年度（484億58百万円）から14億91百万円増加し、499億50百万円と、増収となりました。

地域別では、日本では、顧客ニーズに対応した高付加価値の提案や大型案件の獲得が進み、自治体及び教育分野での受注が増加しました。製品別では、スイッチ製品群及び無線LAN製品の販売が伸長しました。この結果、日本での売上高は332億22百万円（前連結会計年度比10.1%増）となりました。

米州では、米連邦政府向け売上が新政策を巡る不確実性や歳出制約、さらに年後半の政府機関閉鎖の影響を受け、減収となりました。一方、米軍基地における居住者向けインターネットサービスの売上は堅調に推移しました。製品別では、ネットワークインターフェースカードの売上が減少しました。この結果、米州全体での売上高は77億75百万円（前連結会計年度比11.0%減）となりました。

EMEAでは、防衛関連需要の増加を背景に欧州主要国で売上が伸長しました。一方、スペインおよびイタリアでは政府予算の遅れや前期大型案件の反動で減収となったものの、両国以外の販売拠点の増収が全体を下支えしました。製品別では、スイッチ製品群の売上が増加しました。この結果、EMEA全体での売上高は60億38百万円（前連結会計年度比1.1%増）となりました。

APACでは、インドを除く各国で進めた事業再編の影響も重なり、地域全体として減収傾向となりました。一方、ベトナム、シンガポール、オーストラリアでは営業活動の効率化や大型案件の獲得が寄与し、堅調に推移しました。製品別では、スイッチ製品群、無線LAN製品の売上が減少しました。この結果、アジア・オセアニア全体での売上高は29億12百万円（前連結会計年度比18.8%減）となりました。

## &lt;売上総利益&gt;

当連結会計年度の売上総利益は、前連結会計年度（278億99百万円）から13億75百万円増加し、292億75百万円となりました。これは、売上高総利益率の改善に加え、増収に伴って増加したことによるものです。

## &lt;営業利益&gt;

当連結会計年度の営業利益は、前連結会計年度（34億24百万円）から8億3百万円増加し、42億28百万円となりました。これは、開発費の減少や組織再編による効率化により一部費用は抑制されましたが、米州およびEMEA地域における営業体制強化に伴い人件費が増加した結果、販売費及び一般管理費は増加した一方、売上拡大により売上総利益が着実に伸長したことによるものです。

経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等については、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (2) 目標とする経営指標」に記載のとおりであります。

## 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、製品の原材料の購入費用のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。短期運転資金は自己資金及び金融機関からの借入を基本としており、設備投資資金の調達につきましては自己資金及び一部は金融機関からの長期借入を行う等、資金調達の多様性を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な資本的支出の予定はありません。

当連結会計年度末における有利子負債の残高は63億43百万円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は170億29百万円となっております。

### 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。海外の連結子会社は、各国の会計処理基準に準拠しております。連結財務諸表の作成にあたっては、連結会計年度末における資産、負債及び偶発債務並びに連結会計年度における収益、費用に影響を与える見積りを行っておりますが、実際の結果と異なる場合があります。有形固定資産は取得原価により計上し、見積り耐用年数に基づき減価償却を行っております。自社利用ソフトウェアについては見込利用期間に基づき償却を行っております。投資有価証券については時価又は実質価額が著しく下落した場合には、回復する見込があると認められる場合を除き減損処理をしております。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる事項)」に記載しております。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

## 5 【重要な契約等】

当社は、2026年1月17日開催の取締役会において、当社の100%子会社であるAllied Telesis Capital Corp.のIPトリプルプレイ・サービス事業をWarrior Communications, Inc.に譲渡することを決議いたしました。内容の詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(重要な後発事象)」をご参照ください。

## 6 【研究開発活動】

当社グループは、お客様に高品質なワンストップ・ネットワーキング・ソリューションを提供することを目指し、ITインフラおよびサイバーセキュリティ分野において、高い安全性、信頼性、効率性、柔軟性を備えた製品・サービスの研究開発活動に積極的に投資しております。

当社グループは、世界各地に研究開発機能を有する連結子会社を有しており、主な研究開発活動は以下の地域で行っております。

- ・日本
- ・カリフォルニア州サンノゼ
- ・ワシントン州エバレット
- ・ノースカロライナ州ケーリー
- ・ニュージーランド
- ・台湾
- ・イスラエル

開発リソースの有効活用、開発の効率化及び市場投入までの期間短縮を図るため、当社グループは子会社間の連携を推進しております。加えて、大学との共同開発にも取り組んでおり、業界及びその動向に関する知見の深化を図っております。

当連結会計年度において製品化につながった主な研究開発活動は、以下のとおりです。

- ・エンタープライズ向けネットワークスイッチ、ルーターおよび無線LAN製品
- ・産業用イーサネットスイッチ
- ・メディアコンバーターおよびネットワークアダプター
- ・ソフトウェアアプリケーション

主な製品リリースとしては、当社初となるWi-Fi 7対応アクセスポイントや、最大400Gbpsポートをサポートする第3世代SBx908スイッチ群があります。

また、AIおよび自動化技術を活用し、効率性及び品質の向上を図る取り組みも開始しております。現在は、データセンター、クラウド、AI/機械学習分野への投資を強化し、研究開発を進めております。

なお、当連結会計年度における当社グループの研究開発費の総額は4,958百万円となっており、所在地別セグメントの研究開発費は、日本が638百万円、米州及びEMEA（ヨーロッパ、中東及びアフリカ）が2,159百万円、APAC（アジア・オセアニア）が2,160百万円であります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、新製品の開発、生産能力の向上、品質の向上、販売強化及び業務の効率化を目的として、設備の拡充・更新を行っております。当連結会計年度においては、総額554百万円の設備投資を行いました。

内訳としましては、日本では、主として、評価・測定機器の購入及び電話設備購入等に148百万円の投資を行いました。米州では、主として本社建物の修繕、顧客・契約情報等を管理するための業務管理システムの改良、開発設備等に150百万円の投資を行いました。EMEA（ヨーロッパ、中東及びアフリカ）では、主として、オフィスのリノベーション及び事務用機器の購入等に26百万円の投資を行いました。また、APAC（アジア・オセアニア）では、主として、開発用設備や生産・検査用設備等に229百万円の投資を行いました。

#### 2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

| 事業所名<br>(所在地)             | セグメント<br>の名称 | 設備の内容  | 帳簿価額(千円)    |               |                 |               |        | 従業員数<br>(人) |
|---------------------------|--------------|--------|-------------|---------------|-----------------|---------------|--------|-------------|
|                           |              |        | 建物及び<br>構築物 | 機械装置及<br>び運搬具 | 土地<br>(面積㎡)     | 工具、器具<br>及び備品 | 合計     |             |
| 本社<br>(東京都品川区)            | 日本           | 統括業務施設 | -           | -             | -               | 242           | 242    | 37          |
| 京橋イノベーションセンター<br>(東京都中央区) | 日本           | 販売設備   | 76,826      | -             | -               | 6,634         | 83,460 | -           |
| 藤沢事業所<br>(神奈川県藤沢市)        | 日本           | 検査設備   | 12,726      | 984           | 63,125<br>(404) | -             | 76,835 | -           |

##### (2) 国内子会社

| 会社名         | 事業所名<br>(所在地)                | セグメント<br>の名称 | 設備の内容   | 帳簿価額(千円)    |               |             |               |         | 従業員数<br>(人) |
|-------------|------------------------------|--------------|---------|-------------|---------------|-------------|---------------|---------|-------------|
|             |                              |              |         | 建物及び<br>構築物 | 機械装置及<br>び運搬具 | 土地<br>(面積㎡) | 工具、器具<br>及び備品 | 合計      |             |
| アライドテレシス(株) | 本社<br>(東京都品川区)               | 日本           | 販売設備    | 20,869      | -             | -           | 130,910       | 151,780 | 317         |
|             | 京橋イノベーションセンター<br>(東京都中央区)    | 日本           | 販売設備    | 195         | -             | -           | 684           | 880     | 101         |
|             | 藤沢事業所<br>(神奈川県藤沢市)           | 日本           | 検査設備    | 6,718       | -             | -           | 1,149         | 7,868   | 20          |
|             | 横浜カスタマー・センター<br>(神奈川県横浜市港北区) | 日本           | 保守・事務備品 | 9,330       | -             | -           | 49,598        | 58,928  | 182         |

## (3) 在外子会社

| 会社名   | 所在地                         | セグメントの名称 | 設備の内容              | 帳簿価額(千円) |           |                 |           |         |           | 従業員数(人) |
|---|-----------------------------|----------|--------------------|----------|-----------|-----------------|-----------|---------|-----------|---------|
|   |                             |          |                    | 建物及び構築物  | 機械装置及び運搬具 | 土地(面積㎡)         | 工具、器具及び備品 | 使用権資産   | 合計        |         |
| Allied Telesis International (Asia)Pte.Ltd.   | 本社(シンガポール)                  | APAC(注)2 | 生産設備               | -        | 213       | -               | 123,518   | 801,493 | 925,224   | 117     |
| Allied Telesis (Dongguan) Electronic Co. Ltd. | 本社(中国)                      | APAC(注)2 | 生産設備               | -        | 141,805   | -               | 18,644    | 338,532 | 498,981   | 236     |
| Allied Telesis, Inc.                          | 本社(米国)                      | 米州       | 製品開発設備及び販売設備       | 608,124  | 1,839     | 893,576(15,801) | 108,266   | -       | 1,611,806 | 93      |
|   | ノースカロライナ事務所(米国)             | 米州       | 製品開発設備             | 681,306  | -         | 195,706(22,662) | 30,458    | -       | 907,471   | 23      |
|   | エバレット事務所(米国)                | 米州       | 製品開発設備             | 776,347  | -         | 147,654(4,087)  | -         | -       | 924,001   | 9       |
| Allied Telesis Labs Ltd.                      | 本社(ニュージーランド)                | APAC(注)2 | 製品開発設備             | 182,332  | 155,340   | 147,398(13,496) | 58,477    | -       | 543,547   | 167     |
| Allied Telesis Capital Corp.                  | 日本支店(アメリカ空軍横田基地内等)(東京都福生市等) | 米州       | ネットワークサービス関連設備(注)3 | -        | 331,656   | -               | -         | -       | 331,656   | 22      |

(注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。

2 アジア・オセアニア。

3 当該設備が属する事業については、2026年1月17日開催の取締役会において事業譲渡を決議しております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(重要な後発事象)」をご参照ください。

4 主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

| 会社名       | 事業所名(所在地)                | セグメントの名称 | 設備の内容 | 年間賃借料又はリース料(千円) | リース契約残高(千円) |
|-----------|--------------------------|----------|-------|-----------------|-------------|
| 提出会社      | 本社(東京都品川区)               | 日本       | 事務所他  | 212,450         | -           |
|           | 京橋イノベーションセンター(東京都中央区)    | 日本       | 事務所他  | 151,264         | 667,342     |
| アライドテレシス㈱ | 横浜カスタマー・センター(神奈川県横浜市港北区) | 日本       | 事務所他  | 68,722          | -           |

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、市場動向、投資効率等を総合的に勘案して計画しております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

| 種類   | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 600,000,000 |
| 計    | 600,000,000 |

## 【発行済株式】

| 種類   | 事業年度末現在<br>発行数(株)<br>(2025年12月31日) | 提出日現在<br>発行数(株)<br>(2026年3月30日) | 上場金融商品取引所名<br>又は登録認可金融商品<br>取引業協会名 | 内容            |
|------|------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------|
| 普通株式 | 105,012,176                        | 105,012,176                     | 東京証券取引所<br>(スタンダード市場)              | 単元株式数<br>100株 |
| 計    | 105,012,176                        | 105,012,176                     | -                                  | -             |

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストック・オプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社の従業員、監査等委員でない取締役、監査等委員である取締役及び当社グループ会社の従業員、取締役、監査役に対し、ストック・オプションとして新株予約権を無償発行すること、及び募集事項の決定を当社取締役会に委任することにつき、当社株主総会で決議されたものであります。

## (a) 2026年3月26日以前に株主総会及び取締役会決議により発行されたストック・オプションの内容

|  |   |
|--|---|
| 決議年月日                                  | 2025年3月27日第38回定時株主総会<br>及び2026年2月12日取締役会                              |
| 付与対象者の区分及び人数                           | 当社監査等委員でない取締役4名、当社監査等委員である取締役1名、当社従業員1名、当社子会社の取締役3名、当社子会社の従業員5名、合計14名 |
| 新株予約権の数(個)                             | 17,000 (注)1   |
| 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)              | 普通株式 1,700,000 (注)1   |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円)                      | 1株当たり376 (注)2   |
| 新株予約権の権利行使期間                           | 2028年2月15日～2036年2月12日<br>(2029年2月14日～2036年2月12日) (注)3                 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 376<br>資本組入額 188 (注)4  |
| 新株予約権の行使の条件                            | (注)5  |
| 新株予約権の譲渡に関する事項                         | 譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。                                     |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項               | (注)7  |

提出日の前月末(2026年2月28日)における内容を記載しております。

(注)1 本新株予約権1個当たりの目的である株式の数(以下「付与株式数」という。)は当社普通株式100株とする。なお、本新株予約権割当日後、当社が普通株式について株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合は、本新株予約権のうち当該時点で権利行使されていないものについて、次の算式により付与株式数を調整する。ただし、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割又は併合の比率}$$

上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は合理的な範囲で付与株式数を調

整することができるものとする。なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

- 2 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、本新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの金銭の額（以下「行使価額」という。）に付与株式数を乗じた金額とする。行使価額は、本新株予約権の発行を決議した日の株式会社東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（終値がない場合は、それに先立つ直近日の終値）である376円とする。なお、行使価額の調整は以下のとおりとする。

本新株予約権割当日後、当社が普通株式について株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割又は併合の比率}}$$

本新株予約権割当日後、当社が当社普通株式の時価を下回る価額で新株式の発行又は本新株予約権自己株式の処分を行う場合（会社法第194条の規定（単元未満株主による単元未満株式売渡請求）に基づく自己株式の売渡し、当社普通株式に転換される証券若しくは転換できる証券の転換、又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の行使による場合を除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の算式において「既発行株式数」は、当社の発行済普通株式総数から当社の保有する普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合は、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替える。

上記のほか、本新株予約権割当日後、他の種類株式の普通株主への無償割当て又は他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合等、行使価額の調整をすることが適切な場合は、かかる割当て又は配当等の条件等を勘案の上、当社は合理的な範囲で行使価額を調整することができるものとする。

- 3 新株予約権の権利行使期間

2028年2月15日から2036年2月12日とする。

（権利行使期間に関する補足）

2026年2月12日開催の当社取締役会における当該新株予約権の発行決議において、当該新株予約権の内容としての権利行使期間は「2028年2月15日から2036年2月12日」といたしましたが、2026年2月13日に開示した中期経営計画（2026 - 2028）の期間との整合性を取るため、当該新株予約権割当て対象者との間で締結した新株予約権割当て契約書において、権利行使期間を「2029年2月14日から2036年2月12日まで」とすることを合意しております。

- 4 本新株予約権の行使により株式を発行する場合に増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合に増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

- 5 本新株予約権者は、本新株予約権行使時において、当社の従業員、監査等委員でない取締役、監査等委員である取締役及び当社グループ会社の従業員、取締役、監査役の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、当社又は当社グループ会社の申し入れによる辞任、退職等正当な理由に基づく場合はこの限りではない。

新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。

その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した「新株予約権割当て契約書」で定めるところによる。

- 6 新株予約権の取得条項

当社が消滅会社となる合併についての合併契約、当社が分割会社となる吸収分割についての吸収分割契約若しくは新設分割についての新設分割計画、当社が完全子会社となる株式交換についての株式交換契約又は当社が完全子会社となる株式移転計画が、当社株主総会で承認されたとき（株主総会による承認が不要な場合は、当社取締役会決議がなされたとき）は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権を無償で取得することができる。

本新株予約権者が上記「新株予約権の行使の条件」に該当しなくなった場合には、当社は、当社取締役会が別途定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。

- 7 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を有する本新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅するものとする。ただし、次の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

本新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数とする。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記「新株予約権の行使時の払込金額」に定める行使価額につき合理的な調整がなされた額に、上記で決定された株式数を乗じた額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める本新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める本新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使の条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて決定する。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

新株予約権の取得条項

上記(注)6に準じて決定する。

## (b) 2026年3月27日開催の第39回定時株主総会で決議されたストック・オプションの内容

会社法に基づき、以下の要領により特に有利な条件をもって新株予約権を発行することが第39回定時株主総会で決議されました。なお、募集要項の決定については、別途開催される当社取締役会決議によるものとします。

|  |  |
|--|--|
| 決議年月日                                  | 2026年3月27日第39回定時株主総会   |
| 付与対象者の区分及び人数(名)                        | 当社の従業員、監査等委員でない取締役、監査等委員である取締役及び当社グループ会社の従業員、取締役、監査役のうち当社取締役会が認めた者 |
| 新株予約権の数(個)                             | (上限)50,000 (注)1  |
| 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)              | (上限)普通株式 5,000,000 (注)1  |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円)                      | (注)2   |
| 新株予約権の権利行使期間                           | 付与決議日より3年を経過した日から当該決議日より10年間とする。                                   |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | (注)3   |
| 新株予約権の行使の条件                            | (注)4   |
| 新株予約権の譲渡に関する事項                         | 譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。                                  |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項               | (注)6   |

(注)1 本新株予約権1個当たりの目的である株式の数(以下「付与株式数」という。)は当社普通株式100株とする。  
 なお、新株予約権を割り当てる日(以下「割当日」という。)後、当社が株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合は、本新株予約権のうち当該時点で権利行使されていないものについて、次の算式により付与株式数を調整する。ただし、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割又は併合の比率}$$

上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は合理的な範囲で付与株式数を調整することができるものとする。なお、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

2 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、本新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの金銭の額(以下「行使価額」という。)に付与株式数を乗じた金額とする。行使価額は、本新株予約権の発行を決議した日の株式会社東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値(終値がない場合は、それに先立つ直近日の終値)とする。なお、行使価額の調整は以下のとおりとする。  
 割当日後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割又は併合の比率}}$$

割当日後、当社が当社普通株式の時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(会社法第194条の規定(単元未満株主による単元未満株式売渡請求)に基づく自己株式の売渡し、当社普通株式に転換される証券若しくは転換できる証券の転換、又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の行使による場合を除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の算式において「既発行株式数」は、当社の発行済普通株式総数から当社の保有する普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合は、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替える。

上記のほか、割当日後、他の種類株式の普通株主への無償割当てを行う場合等、行使価額の調整をすることが適切な場合は、かかる割当ての条件等を勘案の上、当社は合理的な範囲で行使価額を調整することができるものとする。なお、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

- 3 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

- 4 本新株予約権者は、本新株予約権行使時において、当社の従業員、監査等委員でない取締役、監査等委員である取締役又は当社グループ会社の従業員、取締役、監査役の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、当社又は当社グループ会社の申し入れによる辞任、退職、その他正当な理由があるとして当社取締役会の承認を得た場合はこの限りではない。

新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。

本新株予約権の質入れ、担保権の設定は認めないものとする。

本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

- 5 新株予約権の取得条項

当社が消滅会社となる合併についての合併契約、当社が分割会社となる吸収分割についての吸収分割契約若しくは新設分割についての新設分割計画、当社が完全子会社となる株式交換についての株式交換契約又は当社が完全子会社となる株式移転計画が、当社株主総会で承認されたとき（株主総会による承認が不要な場合は、当社取締役会決議がなされたとき）は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権を無償で取得することができる。

本新株予約権者が上記「新株予約権の行使の条件」に該当しなくなった場合には、当社は、当社取締役会が別途定める日に、当該本新株予約権を無償で取得することができる。

- 6 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の本新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅するものとする。ただし、次の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

本新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数とする。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記「新株予約権の行使時の払込金額」に定める行使価額につき合理的な調整がなされた額に、上記で決定された株式数を乗じた額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める本新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める本新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使の条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて決定する。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

## 新株予約権の取得条項

上記(注)5に準じて決定する。

## 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日                            | 発行済株式<br>総数増減数<br>(株) | 発行済株式<br>総数残高<br>(株) | 資本金<br>増減額<br>(千円) | 資本金残高<br>(千円) | 資本準備金<br>増減額<br>(千円) | 資本準備金<br>残高<br>(千円) |
|--------------------------------|-----------------------|----------------------|--------------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2021年1月1日～<br>2021年12月31日 (注)1 | 60,000                | 109,731,545          | 5,040              | 10,019,161    | 5,040                | 211,486             |
| 2022年1月1日～<br>2022年12月31日      | -                     | 109,731,545          | -                  | 10,019,161    | -                    | 211,486             |
| 2023年1月1日～<br>2023年12月31日      | -                     | 109,731,545          | -                  | 10,019,161    | -                    | 211,486             |
| 2024年1月1日～<br>2024年12月31日      | -                     | 109,731,545          | -                  | 10,019,161    | -                    | 211,486             |
| 2025年1月1日～<br>2025年12月31日 (注)2 | 4,719,369             | 105,012,176          | -                  | 10,019,161    | -                    | 211,486             |

(注)1 新株予約権(ストック・オプション)の行使による増加であります。

2 自己株式の消却による減少であります。

## (5) 【所有者別状況】

(2025年12月31日現在)

| 区分              | 株式の状況(1単元の株式数100株) |       |              |            |         |       |           | 単元未満<br>株式の状況<br>(株) |        |
|-----------------|--------------------|-------|--------------|------------|---------|-------|-----------|----------------------|--------|
|                 | 政府及び<br>地方公共<br>団体 | 金融機関  | 金融商品<br>取引業者 | その他の<br>法人 | 外国法人等   |       | 個人<br>その他 |                      | 計      |
|                 |                    |       |              |            | 個人以外    | 個人    |           |                      |        |
| 株主数<br>(人)      | -                  | 4     | 22           | 59         | 86      | 44    | 13,229    | 13,444               | -      |
| 所有株式数<br>(単元)   | -                  | 5,924 | 99,939       | 4,511      | 560,510 | 3,872 | 375,137   | 1,049,893            | 22,876 |
| 所有株式数<br>の割合(%) | -                  | 0.56  | 9.52         | 0.43       | 53.39   | 0.37  | 35.73     | 100.00               | -      |

(注) 「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が44単元含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

(2025年12月31日現在)

| 氏名又は名称   | 住所  | 所有株式数<br>(千株) | 発行済株式<br>(自己株式を<br>除く。)の<br>総数に対する<br>所有株式数<br>の割合(%) |
|--|---|---------------|---|
| OSHIMA GENERAL HOLDINGS No.1,LLC<br>(常任代理人：みずほ証券株式会社)                              | CORPORATION TRUST CENTER, 1209 ORANGE<br>STREET, WILMINGTON DELAWARE 19801, U.S.A<br>(東京都千代田区大手町1丁目5-1)           | 47,660        | 45.39   |
| 立花証券株式会社   | 東京都中央区日本橋茅場町1丁目13-1<br>4  | 6,761         | 6.44  |
| 横山 尚之  | 東京都杉並区  | 1,512         | 1.44  |
| UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT<br>ACCOUNT<br>(常任代理人：シティバンク、エヌ・エイ東京<br>支店) | BAHNHOFSTRASSE 45, 8001 ZURICH,<br>SWITZERLAND<br>(東京都新宿区新宿6丁目27-30)  | 960           | 0.91  |
| JPモルガン証券株式会社   | 東京都千代田区丸の内2丁目7-3  | 798           | 0.76  |
| 野村証券株式会社<br>(常任代理人：株式会社三井住友銀行)   | 東京都中央区日本橋1丁目13-1<br>(東京都千代田区丸の内1丁目1-2)  | 784           | 0.75  |
| BOFAS INC SEGREGATION ACCOUNT<br>(常任代理人：BOFA証券株式会社)                                | THE CORPORATION TRUST COMPANY, 1209<br>ORANGE ST. COUNTY OF NEW CASTLE<br>WILMINGTON, DE, US<br>(東京都中央区日本橋1丁目4-1) | 634           | 0.60  |
| アライドテレシスホールディングス従業員<br>持株会   | 東京都品川区西五反田7丁目21-11  | 551           | 0.53  |
| 楽天証券株式会社共有口  | 東京都港区南青山2丁目6番21号  | 545           | 0.52  |
| 福永 嘉之  | 広島県廿日市市   | 520           | 0.50  |
| 計  | -   | 60,728        | 57.83   |

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

(2025年12月31日現在)

| 区分             | 株式数(株)           | 議決権の数(個)  | 内容 |
|----------------|------------------|-----------|----|
| 無議決権株式         | -                | -         | -  |
| 議決権制限株式(自己株式等) | -                | -         | -  |
| 議決権制限株式(その他)   | -                | -         | -  |
| 完全議決権株式(自己株式等) | -                | -         | -  |
| 完全議決権株式(その他)   | 普通株式 104,989,300 | 1,049,893 | -  |
| 単元未満株式         | 普通株式 22,876      | -         | -  |
| 発行済株式総数        | 105,012,176      | -         | -  |
| 総株主の議決権        | -                | 1,049,893 | -  |

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4,400株(議決権44個)含まれており  
ます。

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

| 区分  | 株式数(株)        | 価額の総額(千円)   |
|---|---------------|-------------|
| 取締役会(2025年2月26日)での決議状況<br>(取得期間2025年2月27日～2025年5月31日) | (上限)2,000,000 | (上限)500,000 |
| 当事業年度前における取得自己株式                                      | -             | -           |
| 当事業年度における取得自己株式                                       | 2,000,000     | 339,804     |
| 残存決議株式の総数及び価額の総額                                      | -             | 160,196     |
| 当事業年度の末日現在の未行使割合(%)                                   | -             | 32.0        |
| 当期間における取得自己株式   | -             | -           |
| 提出日現在の未行使割合(%)  | -             | 32.0        |

(注) 取得方法は東京証券取引所における市場買付けであります。

| 区分  | 株式数(株)      | 価額の総額(千円)   |
|---|-------------|-------------|
| 取締役会(2025年9月9日)での決議状況<br>(取得期間2025年9月10日～2025年10月31日) | (上限)800,000 | (上限)150,000 |
| 当事業年度前における取得自己株式                                      | -           | -           |
| 当事業年度における取得自己株式                                       | 703,500     | 149,986     |
| 残存決議株式の総数及び価額の総額                                      | 96,500      | 14          |
| 当事業年度の末日現在の未行使割合(%)                                   | 12.1        | 0.0         |
| 当期間における取得自己株式   | -           | -           |
| 提出日現在の未行使割合(%)  | 12.1        | 0.0         |

(注) 取得方法は東京証券取引所における市場買付けであります。

| 区分   | 株式数(株)        | 価額の総額(千円)   |
|--|---------------|-------------|
| 取締役会(2026年3月9日)での決議状況<br>(取得期間2026年3月10日～2026年4月10日) | (上限)1,000,000 | (上限)300,000 |
| 当事業年度前における取得自己株式                                     | -             | -           |
| 当事業年度における取得自己株式                                      | -             | -           |
| 残存決議株式の総数及び価額の総額                                     | -             | -           |
| 当事業年度の末日現在の未行使割合(%)                                  | -             | -           |
| 当期間における取得自己株式  | -             | -           |
| 提出日現在の未行使割合(%)                                       | 100.0         | 100.0       |

(注) 1 取得方法は東京証券取引所における市場買付けであります。

2 「当期間における取得自己株式」には、2026年3月1日から有価証券報告書提出日までの取得株式数は含めておりません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないもの内容】

| 区分              | 株式数(株) | 価額の総額(千円) |
|-----------------|--------|-----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 67     | 11        |
| 当期間における取得自己株式   | -      | -         |

(注) 「当期間における取得自己株式」には、2026年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分                                       | 当事業年度      |                 | 当期間        |                 |
|--|------------|-----------------|------------|-----------------|
|  | 株式数<br>(株) | 処分価額の総額<br>(千円) | 株式数<br>(株) | 処分価額の総額<br>(千円) |
| 引き受ける者の募集を行った<br>取得自己株式                  | -          | -               | -          | -               |
| 消却の処分を行った取得自己株式                          | 4,719,369  | 689,853         | -          | -               |
| 合併、株式交換、株式交付、<br>会社分割に係る移転を行った<br>取得自己株式 | -          | -               | -          | -               |
| その他                                      | -          | -               | -          | -               |
| 保有自己株式数                                  | -          | -               | -          | -               |

(注) 当期間における「保有自己株式数」には、2026年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび東京証券取引所における市場買付けによる株式数は含めておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、利益配分に関する基本方針として、安定的かつ継続的な株主への還元を重要な経営課題と位置づけております。また、社会のニーズや技術動向を踏まえた研究開発を、将来の成長のために不可欠な投資と捉え、経営基盤の強化および財務体質の健全性の確保に努めております。

そのうえで、安定的な増配を目指す累進配当を基本とし、財務の健全性を確保しながら適切な株主還元を実施してまいります。

当期末の配当につきましては、1株につき普通配当8円とさせていただきます。

なお、中期経営計画（2026-2028）においては、株主還元方針を以下のとおり強化することとしております。

- ・累進配当方針の着実な推進
- ・中間配当制度の導入
- ・機動的な自社株買いの継続
- ・株主優待制度の継続

次期（2026年度）につきましては、中間配当制度を導入し、1株当たり年間配当金9円（中間配当4円、期末配当5円）を予定しております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

| 決議年月日             | 配当金の総額（千円） | 1株当たり配当額（円） |
|-------------------|------------|-------------|
| 2026年2月13日 取締役会決議 | 840,097    | 8.00        |

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

## (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、経営の健全性、透明性及び効率性を確保し、継続的に企業価値を高めていくことがコーポレート・ガバナンスの基本であり、経営の最重要課題の一つであると認識しています。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

## イ．企業統治の体制の概要

当社は、取締役会の業務執行に対する監査・監督機能の強化及び取締役会から業務執行取締役への業務執行の決定の委任による意思決定の迅速化等を目的として、「監査等委員会設置会社」を採用しております。

## 取締役会及び取締役

取締役会は、有価証券報告書提出日現在、取締役7名により構成されております。取締役会は、原則として月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令又は定款で定められた事項や経営上の重要な意思決定を行うとともに、取締役の業務執行を監督しております。また、会社法第370条及び当社定款の規定に基づくみなし取締役会決議も活用し、迅速な意思決定と効率化を図っております。

## 監査等委員会及び監査等委員

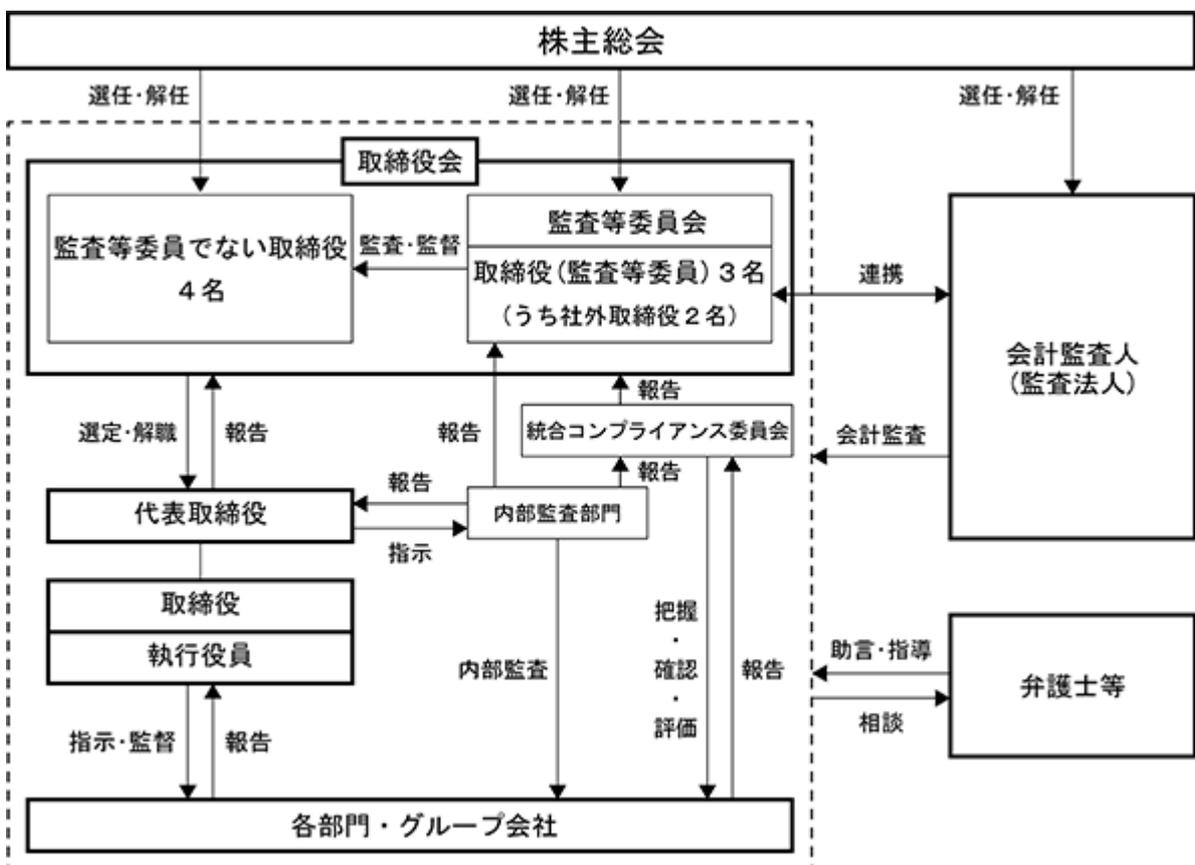
監査等委員会は、有価証券報告書提出日現在、取締役（監査等委員）3名で構成され、うち2名が社外取締役であります。監査等委員会は、原則として月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令、定款及び監査等委員会が定める監査計画に従い、取締役会その他重要な会議に出席するほか、主要な事業所の往査を行い、内部監査部門及び会計監査人と連携しながら経営に関する監査、監督を行っております。

## 機関ごとの構成員

（ は議長、 は構成員）

| 役職名          | 氏名        | 取締役会 | 監査等委員会 |
|--------------|-----------|------|--------|
| 代表取締役会長兼社長   | サチエ オオシマ  |      |        |
| 取締役          | 木村 進一     |      |        |
| 取締役CFO       | 高島 虎明     |      |        |
| 取締役COO       | ユージン リム   |      |        |
| 社外取締役（監査等委員） | 井上 隆司     |      |        |
| 社外取締役（監査等委員） | 石本 和昭     |      |        |
| 取締役（監査等委員）   | アッシュ パドワル |      |        |

## 当社のコーポレート・ガバナンス体制図



ロ．企業統治に関するその他の事項

取締役会の活動状況

2025年度における個々の取締役の取締役会出席状況は次のとおりであります。

| 役職名           | 氏名        | 出席回数 / 開催回数    |
|---------------|-----------|----------------|
| 代表取締役会長兼社長    | サチエ オオシマ  | 6回 / 6回 (100%) |
| 取締役           | 木村 進一     | 6回 / 6回 (100%) |
| 取締役CFO        | 高島 虎明     | 6回 / 6回 (100%) |
| 取締役COO        | ユージン リム   | 6回 / 6回 (100%) |
| 社外取締役 (監査等委員) | 井上 隆司     | 6回 / 6回 (100%) |
| 社外取締役 (監査等委員) | 石本 和昭     | 6回 / 6回 (100%) |
| 取締役 (監査等委員)   | アッシュ パドワル | 6回 / 6回 (100%) |

(注) 上記の取締役会の開催回数のほか、会社法第370条及び当社定款の規定に基づくみなし取締役会決議を85回実施しております。

内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき以下の内部統制システム構築の基本方針を定め、内部統制の整備・強化に取り組んでおります。

(a) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

「企業倫理規程」等のコンプライアンス体制に係る規程を、全役職員が法令、定款及び社会規範を遵守した行動を取るための行動規範とする。本件は総務部を中心に役職員への教育等を行い、その徹底を図る。内部監査部門は、代表取締役の指示のもと、コンプライアンスの状況を監査し、定期的に報告するものとする。また、法令上疑義ある行為等について使用人が直接に情報提供を行う手段としてコンプライアンス・ホットラインを設置・運営する。また、当社グループ全体のコンプライアンス体制の運用評価及び整備・強化・有効性の維持・向上のために必要な諸施策を提言することを目的とする「統合コンプライアンス委員会」を設置する。

(b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「文書管理規程」に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書又は電磁的媒体（以下、「文書等」という。）に記録し、保存及び管理する。監査等委員でない取締役及び監査等委員は「文書管理規程」により、常時、これらの文書等を閲覧できるものとする。

(c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

品質、コンプライアンス、情報セキュリティ、災害及び輸出入管理等に係るリスクについては、各担当部署において諸規則の策定、研修の実施等を行うものとし、組織横断的なリスク状況の監視及び全社の対応は、「統合コンプライアンス委員会」を中心に行うものとする。また、新たに生じた重大なリスクについては、担当取締役を定め、速やかに対応にあたるものとする。

(d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、全役職員が共有する全社的な目標を定め、業務担当取締役は、その目標達成のために各部門の具体的な目標及び「職務権限規程」に基づく効率的な目標達成のための方法を定める。業務担当取締役は、その進捗状況を定期的に取締役会に報告し、取締役会は、その内容を検討の上、改善を促すものとする。

(e) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社グループのセグメント別の事業に関して担当取締役を任命し、法令遵守体制及びリスク管理体制を構築する権限と責任を与えるものとする。これには、子会社の取締役に対し、取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制の整備について指導することを含む。総務部は、これらを横断的に推進し管理する。

- (f) 子会社の取締役等の職務の執行に係る重要事項の当社への報告体制及び職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 当社が定める「グループ管理規程」に基づいて、子会社の業績、財務状況、重要な人事及びその他重要な情報について取締役会は定期的な報告を受け、その状況に応じてリスク管理を行う。また、業務の効率性を確保する社内体制を整備する。
- (g) 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項、並びに当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- 監査等委員会の職務を補助すべき専属の使用人は置かないものとする。ただし、監査等委員会は必要に応じて総務部長の了承を得た上で、総務部所属の使用人に対し監査業務に必要な事項を命令することができるものとし、その使用人は、その命令に関して取締役及び総務部長の指揮命令を受けないものとする。当該使用人の人事評価、懲戒処分等に関しては、監査等委員会の事前の同意を得るものとする。
- (h) 当社及び子会社の取締役・使用人等が監査等委員会に報告をするための体制及びその他の監査等委員会への報告に関する体制
- 当社及び子会社の取締役及び使用人等は、監査等委員会に対して、法令に定める事項（会社法第357条）に加え、全社的に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンス・ホットラインによる通報状況を速やかに報告する。報告の方法は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）と監査等委員会との協議により決定する。
- (i) 報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- 監査等委員会に前項の報告を行った者に対して、当該報告を理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。
- (j) 監査等委員の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- 監査等委員がその職務執行について、当社に対し会社法第399条の2第4項に基づく費用の前払い等の請求をしたときは、当該請求に係る費用又は債務が当該監査等委員の職務執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。
- (k) その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 監査等委員会と代表取締役、業務担当取締役等との間の定期的な意見交換会を設定する。また、監査等委員会は、必要に応じて会計監査人から説明を受けるとともに、情報の交換を行うなど連携を図っていくものとする。

#### 責任限定契約の内容の概要

当社は、監査等委員である社外取締役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令に定める最低限度額であります。

#### 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、当社の取締役及び監査等委員並びに子会社の取締役及び監査役を被保険者とする会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、保険料は全額当社が負担しております。当該保険契約の概要は、被保険者がその職務の執行に起因して損害賠償請求がなされたことによって被る法律上の損害賠償金及び争訟費用を填補するものであり、1年毎に契約更新しております。

ただし、当該保険契約には、被保険者の違法な私的利益供与、犯罪行為、法令に違反することを認識しながら行った場合は填補されないなど、一定の免責事由があります。

#### 取締役の定数

当社の監査等委員でない取締役は8名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

#### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

#### 取締役会で決議できる株主総会決議事項

##### イ．自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、自己株式の取得を行うことができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により、当社の株式を取得することを目的とするものであります。

##### ロ．取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、取締役（取締役であった者を含む。）の会社法第423条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮し、期待される役割を果たしてもらうための環境整備を目的とするものであります。

また、当社は、会社法第427条第1項の規定により、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）との間で、会社法第423条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。ただし、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令に定める額を限度としております。

##### ハ．剰余金の配当等の決定機関

当社は、機動的な配当政策を可能とするため、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）を取締役会の決議によって行う旨、また、会社法第459条第1項各号に掲げる事項についても、取締役会決議により行う旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## (2)【役員の状況】

## 役員一覧

男性6名 女性1名 (役員のうち女性の比率14.3%)

| 役職名            | 氏名<br>(生年月日)                               | 略歴  |  | 任期        | 所有<br>株式数<br>(千株) |
|----------------|--|---|--|-----------|-------------------|
| 代表取締役<br>会長兼社長 | サチエ オオシマ<br>(Sachie Oshima)<br>(1971年8月9日) | 2004年1月<br>2004年3月<br>2005年5月<br>2007年2月<br>2007年3月<br>2010年3月<br>2020年9月<br>2022年10月                           | Allied Telesis, Inc.取締役<br>当社取締役<br>Allied Telesis Capital Corp.取締役<br>スタンフォード大学医学部特任准教授<br>当社取締役退任<br>当社取締役<br>当社代表取締役副会長<br>当社代表取締役会長兼社長(現任)<br>アライドテレシス株式会社代表取締役会長<br>Allied Telesis, Inc.取締役会長兼CEO(現任)<br>Allied Telesis Capital Corp.取締役社長兼CEO(現任)<br>アライドテレシス株式会社代表取締役社長(現任) | (注)2      | -                 |
| 取締役            | 木村 進一<br>(1961年8月14日)                      | 1988年1月<br>2004年7月<br>2009年6月<br>2010年3月<br>2012年3月<br>2016年3月<br>2020年3月<br>2023年3月<br>2024年3月                 | 当社入社<br>株式会社アライドテレシス開発センター執行役員製品技術本部長<br>当社執行役員CIO<br>当社代表取締役<br>アライドテレシス株式会社代表取締役<br>当社及びアライドテレシス株式会社代表取締役退任<br>アライドテレシス株式会社シニアテクニカルアドバイザー<br>同社取締役上級副社長COO<br>当社取締役(現任)  | (注)2      | 128               |
| 取締役<br>CFO     | 高島 虎明<br>(1974年6月15日)                      | 2008年6月<br>2011年1月<br>2014年4月<br>2017年6月<br>2023年4月<br>2024年3月<br>2024年10月<br>2026年3月                           | Allied Telesis, Inc.入社<br>同社チーフコントローラー<br>当社執行役員<br>当社上級執行役員ファイナンス本部長<br>当社専務執行役員<br>当社取締役<br>当社取締役CFO(現任)<br>アライドテレシス株式会社取締役CFO(現任)   | (注)2      | -                 |
| 取締役<br>COO     | ユージン リム<br>(Eu-Jin Lim)<br>(1968年5月13日)    | 1992年6月<br>2006年6月<br><br>2010年2月<br>2010年3月<br>2014年3月<br>2014年4月<br>2022年12月<br>2023年6月<br>2024年3月<br>2025年4月 | Allied Telesis, Inc.入社<br>同社エンジニアリング及び製造部門エグゼクティブ・バイス・プレジデント<br><br>同社取締役社長兼COO<br>当社取締役<br>当社取締役退任<br>当社グループエンジニアリング及びオペレーション部門コンサルタント<br>当社グループ経営コンサルタント<br>Allied Telesis, Inc.社長<br>当社取締役COO(現任)<br>Allied Telesis Labs Ltd.取締役(現任)<br>Allied Telesis Wireless Ltd.取締役(現任)     | (注)2      | -                 |
| 取締役<br>(監査等委員) | 井上 隆司<br>(1956年8月24日)                      | 1981年10月<br>1985年5月<br>1998年6月<br>2018年10月<br>2019年3月<br><br>2019年11月<br>2023年3月                                | 監査法人サンワ・東京丸の内事務所(現有限責任監査法人トーマツ)入所<br>公認会計士登録<br>監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)社員就任<br>井上隆司公認会計士事務所開設(現任)<br>共栄会計事務所パートナー就任(現任)<br>株式会社ブロードバンドタワー取締役(監査等委員)(現任)<br>当社取締役(監査等委員)(現任)<br>アライドテレシス株式会社監査役(現任)<br>方正株式会社(現HOUSE I株式会社)監査役<br>同社取締役(監査等委員)(現任)                                  | (注)1<br>3 | -                 |
| 取締役<br>(監査等委員) | 石本 和昭<br>(1956年5月9日)                       | 1986年8月<br>1995年7月<br>1996年8月<br>2016年3月<br>2022年3月   | 篠原啓慶会計事務所入所<br>当社監査役<br>石本和昭税理士事務所設立 同事務所所長(現任)<br>当社監査役退任<br>当社取締役(監査等委員)(現任)   | (注)1<br>3 | -                 |

| 役職名            | 氏名<br>(生年月日)                               | 略歴                 |   | 任期    | 所有<br>株式数<br>(千株) |
|----------------|--|--------------------|---|-------|-------------------|
| 取締役<br>(監査等委員) | アッシュ パドワル<br>(Ashit Padwal)<br>(1964年1月5日) | 2011年9月<br>2012年3月 | Allied Telesis, Inc. チーフリスクオフィサー<br>当社取締役<br>Allied Telesis, Inc. 取締役<br>Allied Telesis Capital Corp. 取締役 | (注) 3 | -                 |
|                |  | 2022年9月<br>2025年3月 | サンノゼ州立大学法倫理学教授(現任)<br>当社取締役(監査等委員)(現任)  |       |                   |
| 計              |  |                    |   |       | 128               |

- (注) 1 取締役(監査等委員)井上隆司及び石本和昭は、社外取締役であります。
- 2 取締役の任期は、2026年3月27日開催の定時株主総会終結の時から2026年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 取締役(監査等委員)の任期は、2025年3月27日開催の定時株主総会終結の時から2026年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

#### 社外取締役の状況

当社の社外取締役は監査等委員である取締役2名であり、いずれも、当社と人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

監査等委員 井上隆司は、2019年3月28日開催の第32回定時株主総会で監査等委員である社外取締役に選任されました。同氏は公認会計士としての専門知識を有しており、財務及び会計に関する知見を活かし、業務執行の監査・監督を公正・的確に遂行しております。なお、当社は同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

監査等委員 石本和昭は、2022年3月30日開催の第35回定時株主総会で監査等委員である社外取締役に選任されました。同氏は税理士としての専門知識を有しており、財務及び会計に関する知見を活かし、業務執行の監査・監督を公正・的確に遂行しております。なお、当社は同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する明確な基準はありませんが、専門的知識を有し、豊富な経験と知見をもとに発言を行い、客観的立場から経営の監視・監督を行える人材を選任する方針であります。

#### 社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会による監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社の社外取締役は2名全員が監査等委員であります。監査等委員会と会計監査人は定期的に会合を開催しており、監査体制、監査計画、監査の実施状況等について情報交換、意見交換を行っております。また、必要に応じて内部監査部門から報告を受け、相互に連携しながら監査・監督を行っております。

## (3)【監査の状況】

## 監査等委員会監査の状況

当社の監査等委員会は、監査等委員である取締役3名（うち2名が社外取締役）であります。

監査等委員である井上隆司は公認会計士、石本和昭は税理士の資格を有しており、それぞれ財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査等委員会は、当社の監査等委員会規則、監査等委員監査基準及び各種法令等に基づき取締役の職務の執行の監査等を行います。具体的には、取締役会等重要な会議への出席、取締役を含む役員等との面談の他、会計監査人及び内部監査担当者と緊密な連携を構築することにより、適切な三様監査を実施いたします。

当事業年度において当社は監査等委員会を13回開催しており、個々の監査等委員の出席状況は次のとおりです。

| 氏名        | 出席回数 / 開催回数       |
|-----------|-------------------|
| 井上 隆司     | 13回/13回（100％）     |
| 新井 章治     | 3回/3回（100％）（注）1   |
| 石本 和昭     | 13回/13回（100％）     |
| アッシュ パドワル | 10回/10回（100％）（注）2 |

（注）1 新井章治氏は、2025年3月27日開催の第38回定時株主総会において、任期満了により退任したため、退任以前に開催された監査等委員会への出席状況を記載しております。

2 アッシュパドワル氏は、2025年3月27日開催の第38回定時株主総会において、選任され、同日に就任いたしましたので、就任以降に開催された監査等委員会への出席状況を記載しております。

監査等委員会における主な検討事項としては、監査の方針及び監査実施計画、監査報告書の作成、取締役の職務執行の妥当性、会計監査人の監査の方法及び結果の相当性、会計監査人の選定・評価、会計監査人の報酬に対する同意、内部統制システムの整備・運用状況等であります。監査等委員は、当社取締役会等重要な会議への出席、重要な決裁書類等の閲覧を主な業務とし、監査等委員会として、当社取締役会への出席のほか、主要なグループ会社の管理状況、会計監査人からの監査の実施状況・結果報告の確認等、当社及び主要子会社の取締役（当社の監査等委員を除く）等との意見交換、内部統制担当との情報交換等を行っております。

なお、当社は、監査等委員会の職務を補助するものとして総務部所属の従業員が情報の収集を行うほか、内部統制システムを用いた組織的監査を実施することにより監査の実効性を確保していることから、常勤の監査等委員を選定しておりません。

## 内部監査の状況

当社の内部監査は、内部監査部門が年間計画に基づき当社グループの財務報告に係る内部統制を含む内部監査を実施しており、評価結果を代表取締役に報告しております。また、必要に応じて監査等委員会や会計監査人との協議を実施することで内部監査の実効性を高めております。

当社の内部監査の人員は1名であり、内部監査について相当程度の知見と経験を有するものであります。

## 会計監査の状況

## a. 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

## b. 継続監査期間

1998年以降

## c. 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 浅井 則彦

指定有限責任社員 業務執行社員 村山 拓

## d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 14名、その他 22名

## e. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、公益社団法人日本監査役協会が公表している「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき、会計監査人の品質管理の状況、独立性及び専門性、監査体制が整備されていること、具体的な監査計画並びに監査報酬が合理的かつ妥当であることを確認し、監査実績などを踏まえたうえで、総合的に判断し、会計監査人を選定しております。

会計監査人が会社法第340条第1項に定める解任事由に該当するときは、監査等委員全員の同意に基づく解任、又は監査等委員会の決議により、株主総会に提出する会計監査人の解任に関する議案の内容の決定を行います。

また、監査等委員会は、会計監査人の独立性・専門性及び監査活動の適切性・妥当性の評価等を勘案し、

株主総会に提出する会計監査人を再任しないことに関する議案の内容を決定します。

f. 監査等委員及び監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員及び監査等委員会は、上述の選定方針に掲げた基準の適否に加え、監査計画の説明、監査の結果報告等を考慮して総合的に評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

| 区分    | 前連結会計年度          |                 | 当連結会計年度          |                 |
|-------|------------------|-----------------|------------------|-----------------|
|       | 監査証明業務に基づく報酬(千円) | 非監査業務に基づく報酬(千円) | 監査証明業務に基づく報酬(千円) | 非監査業務に基づく報酬(千円) |
| 提出会社  | 56,800           | -               | 53,000           | -               |
| 連結子会社 | 10,000           | -               | 10,000           | -               |
| 計     | 66,800           | -               | 63,000           | -               |

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(デロイトトーマツグループ)に対する報酬(a.を除く)

| 区分    | 前連結会計年度          |                 | 当連結会計年度          |                 |
|-------|------------------|-----------------|------------------|-----------------|
|       | 監査証明業務に基づく報酬(千円) | 非監査業務に基づく報酬(千円) | 監査証明業務に基づく報酬(千円) | 非監査業務に基づく報酬(千円) |
| 提出会社  | -                | 10,610          | -                | 10,209          |
| 連結子会社 | 204,991          | 185,348         | 193,779          | 233,466         |
| 計     | 204,991          | 195,959         | 193,779          | 243,676         |

当社における非監査業務の内容は、税務関連業務及び確定申告の支援業務等であります。また、連結子会社における非監査業務の内容は、税務関連業務及び移転価格税制に関するアドバイザリー業務等であります。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査法人より監査計画に基づいた見積りを受け、規模・特性・監査日数等を勘案した上で決定しております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の監査計画、職務の執行状況、報酬見積りの算出根拠等を検討した結果、妥当であると判断し、会計監査人の報酬等の額について会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4)【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は2025年11月1日開催の取締役会において、監査等委員でない取締役の報酬等の決定方針を以下のとおり決議しております。

a. 基本方針

当社の監査等委員でない取締役の報酬等は、企業価値の持続的な向上を図るため株主利益との連動も意識した報酬体系とし、各取締役の職責及び適切なインセンティブ付与を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とします。

各取締役の報酬等の内容の決定に際しては、下記bに基づく金銭報酬等としての基本報酬(固定報酬)及び賞与並びに下記cに基づく非金銭報酬等(株式報酬)としてのストック・オプションにより、上記の基本方針を踏まえた割合で構成することとします。

b. 金銭報酬等の個人別の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

監査等委員でない取締役の金銭報酬等は、基本報酬としての月次の固定報酬のほか、特別な貢献等があった取締役に対して支給する賞与とします。

このうち基本報酬(固定報酬)に関しては、株主総会の決議により承認された金銭報酬等の範囲内で、会社の業績、当該取締役の担当職務及び貢献度等を総合的に勘案してその額を決定し、毎月支払うものとします。

賞与に関しては、支給対象となる取締役に特別な貢献等があった場合に、株主総会の決議により承認された金銭報酬等の範囲内で、当該貢献の内容等を総合的に勘案してその額を決定し、適切な時期に支給するものとします。

c. 非金銭報酬等(株式報酬)の内容及び額若しくは数又はその算定方法等の決定に関する方針

監査等委員でない取締役の非金銭報酬等（株式報酬）はストック・オプションとし、当社グループの業績向上及び企業価値増大に対する取締役の意欲や士気を高めるとともに、株主の視点を取り入れることにより取締役の経営参画の意識を高める観点から、会社の業績、担当職務、貢献度等を総合的に勘案しつつ、株主総会の決議により承認された非金銭報酬等（株式報酬）の範囲内で、その内容及び額又は数を決定し、適当な時期に付与するものとします。

d. 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定の方法に関する事項

監査等委員でない取締役の金銭報酬等（基本報酬（固定報酬）及び賞与）については、取締役会決議に基づき、代表取締役会長兼社長がその具体的な内容の決定について委任を受けるものとし、その権限の内容は、株主総会の決議により承認された範囲内での各取締役の個別額の決定とします。

非金銭報酬等（株式報酬）の内容及び額または数については、取締役会の決議により決定します。

なお、監査等委員である取締役の報酬等は、監査等委員である取締役の協議により決定しております。

取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

・監査等委員でない取締役の報酬限度額：

2019年3月28日開催の第32回定時株主総会において、年額7億円以内（ただし使用人分給与は含まない。）と決議されております。当該総会終結時点の監査等委員でない取締役の員数は3名です。

・監査等委員である取締役の報酬限度額：

2019年3月28日開催の第32回定時株主総会において、年額5,000万円以内と決議されております。当該総会終結時点の監査等委員である取締役の員数は3名（うち社外取締役3名）です。

取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

当該事業年度の監査等委員でない取締役の個人別の報酬等の決定にあたっては、代表取締役会長兼社長であるサチエオオシマ氏に一任しております。

委任をした理由は、会社の業績を勘案しつつ、各取締役の担当職務やその職務状況、貢献度等の評価を行うには、同人が適していると判断したためであります。

取締役会は、当事業年度に係る監査等委員でない取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものと判断しております。

## 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分                         | 報酬等の総額<br>(百万円) | 報酬等の種類別の総額(百万円) |                |    |       | 対象となる<br>役員の員数<br>(人) |
|------------------------------|-----------------|-----------------|----------------|----|-------|-----------------------|
|                              |                 | 基本報酬<br>(固定報酬)  | ストック・<br>オプション | 賞与 | 退職慰労金 |                       |
| 取締役<br>(監査等委員及び社外取<br>締役を除く) | 213             | 213             | -              | -  | -     | 5                     |
| 監査等委員<br>(社外取締役を除く)          | 9               | 9               | -              | -  | -     | 1                     |
| 社外役員                         | 17              | 17              | -              | -  | -     | 3                     |

## 役員ごとの連結報酬等の総額等

| 氏名       | 連結報酬等<br>の総額 | 役員区分 | 会社区分                                  | 連結報酬等の種類別の額 |
|----------|--------------|------|---------------------------------------|-------------|
|          |              |      |                                       | 基本報酬(固定報酬)  |
| サチエ オオシマ | 216百万円       | 取締役  | 提出会社                                  | 120百万円      |
|          |              | 取締役  | 連結子会社<br>アライドテレシス(株)                  | 96百万円       |
|          | 590千米ドル      | 取締役  | 連結子会社<br>Allied Telesis, Inc.         | 350千米ドル     |
|          |              | 取締役  | 連結子会社<br>Allied Telesis Capital Corp. | 240千米ドル     |

(注) 1 連結報酬等の総額が1億円以上である者に限定して記載しております。

2 報酬等の種類は基本報酬(固定報酬)のみであります。

使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

## (5)【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的に従って、保有する投資株式を「純投資目的である投資株式」とそれ以外に区分しております。「純投資目的である投資株式」とは、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資株式と考えております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

## a. 銘柄数及び貸借対照表計上額

|            | 銘柄数<br>(銘柄) | 貸借対照表計上額の<br>合計額(千円) |
|------------|-------------|----------------------|
| 非上場株式      | 2           | 1,892                |
| 非上場株式以外の株式 | -           | -                    |

## b. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
- なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2025年1月1日から2025年12月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2025年1月1日から2025年12月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、企業会計基準委員会等の行う研修に参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

|                  | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|------------------|--------------------------|--------------------------|
| <b>資産の部</b>      |                          |                          |
| 流動資産             |                          |                          |
| 現金及び預金           | 14,259,346               | 17,029,080               |
| 受取手形、売掛金及び契約資産   | 1 9,614,524              | 1 8,103,665              |
| 商品及び製品           | 6,345,797                | 6,453,500                |
| 仕掛品              | 385,271                  | 577,412                  |
| 原材料及び貯蔵品         | 2,234,842                | 2,433,752                |
| その他              | 2,704,573                | 2,697,639                |
| 貸倒引当金            | 124,205                  | 116,758                  |
| 流動資産合計           | 35,420,151               | 37,178,293               |
| 固定資産             |                          |                          |
| 有形固定資産           |                          |                          |
| 建物及び構築物          | 6,729,253                | 6,712,993                |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 4,026,624                | 4,137,653                |
| 建物及び構築物（純額）      | 2,702,629                | 2,575,340                |
| 機械装置及び運搬具        | 4,085,956                | 4,205,076                |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 3,455,271                | 3,568,133                |
| 機械装置及び運搬具（純額）    | 630,684                  | 636,943                  |
| 工具、器具及び備品        | 5,823,275                | 6,057,743                |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 5,207,826                | 5,292,081                |
| 工具、器具及び備品（純額）    | 615,449                  | 765,662                  |
| 土地               | 1,457,533                | 1,447,460                |
| 使用権資産            | 3,292,607                | 4,170,360                |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | 2,165,512                | 2,608,804                |
| 使用権資産（純額）        | 1,127,094                | 1,561,555                |
| 建設仮勘定            | 217,057                  | 13,857                   |
| 有形固定資産合計         | 6,750,450                | 7,000,820                |
| 無形固定資産           |                          |                          |
| その他              | 211,007                  | 206,934                  |
| 無形固定資産合計         | 211,007                  | 206,934                  |
| 投資その他の資産         |                          |                          |
| 投資有価証券           | 1,892                    | 1,892                    |
| 繰延税金資産           | 1,951,274                | 2,095,039                |
| その他              | 2,151,729                | 2,245,872                |
| 投資その他の資産合計       | 4,104,896                | 4,342,804                |
| 固定資産合計           | 11,066,354               | 11,550,559               |
| 資産合計             | 46,486,505               | 48,728,852               |

(単位：千円)

|               | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|---------------|--------------------------|--------------------------|
| <b>負債の部</b>   |                          |                          |
| 流動負債          |                          |                          |
| 支払手形及び買掛金     | 3,188,882                | 3,942,804                |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,280,056                | 1,182,661                |
| リース債務         | <sup>2</sup> 958,793     | <sup>2</sup> 995,797     |
| 未払法人税等        | 496,287                  | 738,232                  |
| 賞与引当金         | 648,050                  | 637,559                  |
| 契約負債          | 10,748,344               | 11,791,370               |
| その他           | 3,403,182                | 3,232,983                |
| 流動負債合計        | 20,723,597               | 22,521,410               |
| 固定負債          |                          |                          |
| 長期借入金         | 3,016,943                | 1,833,626                |
| リース債務         | <sup>2</sup> 2,412,462   | <sup>2</sup> 2,321,089   |
| 繰延税金負債        | 56,860                   | 22,021                   |
| 退職給付に係る負債     | 534,610                  | 440,046                  |
| その他           | 290,422                  | 257,018                  |
| 固定負債合計        | 6,311,299                | 4,873,802                |
| 負債合計          | 27,034,896               | 27,395,212               |
| <b>純資産の部</b>  |                          |                          |
| 株主資本          |                          |                          |
| 資本金           | 10,019,161               | 10,019,161               |
| 利益剰余金         | 7,030,611                | 8,614,296                |
| 自己株式          | 200,051                  | -                        |
| 株主資本合計        | 16,849,721               | 18,633,458               |
| その他の包括利益累計額   |                          |                          |
| 為替換算調整勘定      | 2,598,287                | 2,696,828                |
| 退職給付に係る調整累計額  | 3,599                    | 115                      |
| その他の包括利益累計額合計 | 2,601,887                | 2,696,943                |
| 非支配株主持分       | -                        | 3,237                    |
| 純資産合計         | 19,451,608               | 21,333,639               |
| 負債純資産合計       | 46,486,505               | 48,728,852               |

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

|                 | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|-----------------|---|---|
| 売上高             | 1 48,458,725                              | 1 49,950,064                              |
| 売上原価            | 20,559,238                                | 20,674,603                                |
| 売上総利益           | 27,899,486                                | 29,275,460                                |
| 販売費及び一般管理費      | 2, 3 24,474,649                           | 2, 3 25,046,704                           |
| 営業利益            | 3,424,837                                 | 4,228,756                                 |
| 営業外収益           |   |   |
| 受取利息            | 3,289                                     | 11,500                                    |
| 受取配当金           | 221                                       | 221                                       |
| 為替差益            | 497,913                                   | -   |
| 受取家賃            | 23,251                                    | 37,599                                    |
| 受取保険金           | -   | 9,851                                     |
| その他             | 31,374                                    | 19,997                                    |
| 営業外収益合計         | 556,049                                   | 79,170                                    |
| 営業外費用           |   |   |
| 支払利息            | 221,409                                   | 188,743                                   |
| 為替差損            | -   | 310,223                                   |
| その他             | 32,088                                    | 9,228                                     |
| 営業外費用合計         | 253,498                                   | 508,195                                   |
| 経常利益            | 3,727,389                                 | 3,799,731                                 |
| 特別利益            |   |   |
| 固定資産売却益         | 4 1,661,587                               | -   |
| 特別利益合計          | 1,661,587                                 | -   |
| 特別損失            |   |   |
| 固定資産売却損         | 5 2,493                                   | -   |
| 減損損失            | 6 48,539                                  | 6 7,239                                   |
| 子会社清算損          | 10,412                                    | -   |
| 事業再編損           | -   | 7 73,697                                  |
| 特別損失合計          | 61,445                                    | 80,936                                    |
| 税金等調整前当期純利益     | 5,327,531                                 | 3,718,794                                 |
| 法人税、住民税及び事業税    | 735,392                                   | 967,260                                   |
| 法人税等調整額         | 990,550                                   | 170,465                                   |
| 法人税等合計          | 1,725,942                                 | 796,795                                   |
| 当期純利益           | 3,601,588                                 | 2,921,999                                 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | -   | 2,166                                     |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 3,601,588                                 | 2,919,832                                 |

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

|              | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|--------------|---|---|
| 当期純利益        | 3,601,588                                 | 2,921,999                                 |
| その他の包括利益     |   |   |
| 為替換算調整勘定     | 781,486                                   | 99,611                                    |
| 退職給付に係る調整額   | 3,443                                     | 3,483                                     |
| その他の包括利益合計   | 1, 2 784,930                              | 1, 2 96,127                               |
| 包括利益         | 4,386,519                                 | 3,018,126                                 |
| (内訳)         |   |   |
| 親会社株主に係る包括利益 | 4,386,519                                 | 3,014,889                                 |
| 非支配株主に係る包括利益 | -   | 3,237                                     |

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2024年 1月 1日 至 2024年12月31日）

(単位：千円)

|                      | 株主資本       |         |           |         |            |
|----------------------|------------|---------|-----------|---------|------------|
|                      | 資本金        | 資本剰余金   | 利益剰余金     | 自己株式    | 株主資本合計     |
| 当期首残高                | 10,019,161 | 199,447 | 5,391,413 | 42      | 15,609,979 |
| 当期変動額                |            |         |           |         |            |
| 剰余金の配当               |            |         | 109,731   |         | 109,731    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益      |            |         | 3,601,588 |         | 3,601,588  |
| 自己株式の取得              |            |         |           | 200,008 | 200,008    |
| 非支配株主との取引に係る親会社の持分変動 |            | 199,447 | 1,852,659 |         | 2,052,106  |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  |            |         |           |         |            |
| 当期変動額合計              | -          | 199,447 | 1,639,198 | 200,008 | 1,239,742  |
| 当期末残高                | 10,019,161 | -       | 7,030,611 | 200,051 | 16,849,721 |

|                      | その他の包括利益累計額 |              |               | 新株予約権  | 純資産合計      |
|----------------------|-------------|--------------|---------------|--------|------------|
|                      | 為替換算調整勘定    | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 |        |            |
| 当期首残高                | 1,816,801   | 155          | 1,816,956     | 41,038 | 17,467,974 |
| 当期変動額                |             |              |               |        |            |
| 剰余金の配当               |             |              |               |        | 109,731    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益      |             |              |               |        | 3,601,588  |
| 自己株式の取得              |             |              |               |        | 200,008    |
| 非支配株主との取引に係る親会社の持分変動 |             |              |               |        | 2,052,106  |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | 781,486     | 3,443        | 784,930       | 41,038 | 743,891    |
| 当期変動額合計              | 781,486     | 3,443        | 784,930       | 41,038 | 1,983,634  |
| 当期末残高                | 2,598,287   | 3,599        | 2,601,887     | -      | 19,451,608 |

当連結会計年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

(単位：千円)

|                     | 株主資本       |           |         |            |
|---------------------|------------|-----------|---------|------------|
|                     | 資本金        | 利益剰余金     | 自己株式    | 株主資本合計     |
| 当期首残高               | 10,019,161 | 7,030,611 | 200,051 | 16,849,721 |
| 当期変動額               |            |           |         |            |
| 剰余金の配当              |            | 646,294   |         | 646,294    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益     |            | 2,919,832 |         | 2,919,832  |
| 自己株式の取得             |            |           | 489,801 | 489,801    |
| 自己株式の消却             |            | 689,853   | 689,853 | -          |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） |            |           |         |            |
| 当期変動額合計             | -          | 1,583,685 | 200,051 | 1,783,736  |
| 当期末残高               | 10,019,161 | 8,614,296 | -       | 18,633,458 |

|                     | その他の包括利益累計額 |              |               | 非支配株主持分 | 純資産合計      |
|---------------------|-------------|--------------|---------------|---------|------------|
|                     | 為替換算調整勘定    | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 |         |            |
| 当期首残高               | 2,598,287   | 3,599        | 2,601,887     | -       | 19,451,608 |
| 当期変動額               |             |              |               |         |            |
| 剰余金の配当              |             |              |               |         | 646,294    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益     |             |              |               |         | 2,919,832  |
| 自己株式の取得             |             |              |               |         | 489,801    |
| 自己株式の消却             |             |              |               |         | -          |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 98,540      | 3,483        | 95,056        | 3,237   | 98,294     |
| 当期変動額合計             | 98,540      | 3,483        | 95,056        | 3,237   | 1,882,030  |
| 当期末残高               | 2,696,828   | 115          | 2,696,943     | 3,237   | 21,333,639 |

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

|                            | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|----------------------------|---|---|
| <b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>    |   |   |
| 税金等調整前当期純利益                | 5,327,531                                 | 3,718,794                                 |
| 減価償却費                      | 1,187,062                                 | 1,107,259                                 |
| 減損損失                       | 48,539                                    | 7,239                                     |
| 貸倒引当金の増減額(は減少)             | 73,678                                    | 6,544                                     |
| 賞与引当金の増減額(は減少)             | 35,247                                    | 13,852                                    |
| 退職給付に係る負債の増減額(は減少)         | 40,058                                    | 99,460                                    |
| 受取利息及び受取配当金                | 3,510                                     | 11,721                                    |
| 支払利息                       | 221,409                                   | 188,743                                   |
| 為替差損益(は益)                  | 560,797                                   | 317,104                                   |
| 事業再編損                      | -   | 73,697                                    |
| 受取家賃                       | 23,251                                    | 37,599                                    |
| 受取保険金                      | -   | 9,851                                     |
| 子会社清算損益(は益)                | 10,412                                    | -   |
| 売上債権及び契約資産の増減額(は増加)        | 1,189,338                                 | 1,486,482                                 |
| 棚卸資産の増減額(は増加)              | 1,887,578                                 | 551,901                                   |
| 仕入債務の増減額(は減少)              | 665,553                                   | 694,934                                   |
| 固定資産売却損益(は益)               | 1,659,093                                 | -   |
| 契約負債の増減額(は減少)              | 1,400,345                                 | 1,056,524                                 |
| その他                        | 462,600                                   | 349,716                                   |
| 小計                         | 5,440,243                                 | 7,570,132                                 |
| 利息及び配当金の受取額                | 3,510                                     | 11,721                                    |
| 利息の支払額                     | 223,918                                   | 188,378                                   |
| 法人税等の支払額又は還付額(は支払)         | 500,001                                   | 676,378                                   |
| 事業再編による支出                  | -   | 17,406                                    |
| 保険金の受取額                    | -   | 9,851                                     |
| 家賃の受取額                     | 23,251                                    | 37,599                                    |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー           | 5,743,088                                 | 6,747,143                                 |
| <b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>    |   |   |
| 有形固定資産の取得による支出             | 616,915                                   | 515,676                                   |
| 有形固定資産の売却による収入             | 3,371,784                                 | 2,165                                     |
| 無形固定資産の取得による支出             | 40,956                                    | 10,208                                    |
| その他                        | 161,325                                   | 13,604                                    |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー           | 2,875,238                                 | 537,324                                   |
| <b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>    |   |   |
| 長期借入金の返済による支出              | 1,962,754                                 | 1,271,716                                 |
| 自己株式の取得による支出               | 200,008                                   | 489,801                                   |
| 配当金の支払額                    | 108,528                                   | 642,764                                   |
| 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出 | 2,093,145                                 | -   |
| リース債務の返済による支出              | 959,880                                   | 896,724                                   |
| その他                        | 114,795                                   | 38,236                                    |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー           | 5,439,112                                 | 3,339,244                                 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額           | 379,616                                   | 100,840                                   |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少)         | 3,558,830                                 | 2,769,734                                 |
| 現金及び現金同等物の期首残高             | 10,700,515                                | 14,259,346                                |
| 現金及び現金同等物の期末残高             | 1 14,259,346                              | 1 17,029,080                              |

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 26社

主要な連結子会社名

- ・アライドテレシス株式会社
- ・Allied Telesis, Inc.

(2) 非連結子会社の数

該当事項はありません。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用関連会社の数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社

該当事項はありません。

3 連結子会社及び持分法適用関連会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Allied Telesis India Private Ltd.の決算日は3月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法によっております。

デリバティブ

時価法によっております。

棚卸資産

商品及び製品

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は、定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法）により、海外連結子会社は、定額法によっております。

主な耐用年数

建物及び構築物

（3年～38年）

機械装置及び運搬具

（4年～10年）

工具、器具及び備品

（2年～20年）

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアは、社内における見込利用期間（3年又は5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

使用権資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、在外連結子会社については、国際財務報告基準及び米国会計基準に基づき財務諸表を作成しており、それぞれ国際財務報告基準第16号「リース」（以下「IFRS第16号」という。）及び米国会計基準第2016-02「リース」（以下「ASU第2016-02号」という。）を適用しております。IFRS第16号及びASU第2016-02号により、リースの借手については、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数により、発生の翌連結会計年度から損益処理することとしております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

商品及び製品の販売

販売契約に基づいて商品又は製品を引渡す履行義務を負っており、引渡す一時点において顧客が当該商品に対する支配を獲得した段階で履行義務が充足されると判断されることから、当該時点で収益を認識しております。

保守サービス

主に商品又は製品の保守であり、顧客との保守契約に基づいて保守サービスを提供する履行義務を負っております。当該保守契約は、一定の期間にわたり履行義務を充足する取引であり、履行義務の充足の進捗度に応じて収益を認識しております。

導入支援サービス、及びこれに附随する製品販売

履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しております。

ファイナンス・リース取引

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

- (6) 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成にあたって採用した重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、海外連結子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

- (7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ

為替予約取引等

ヘッジ対象 借入金の利息

外貨建金銭債務

ヘッジ方針

当社の市場リスク管理要領に基づき、外貨建取引の為替変動リスクを回避する目的で必要な範囲内で為替予約取引を行っております。また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ有効性の評価は、原則としてヘッジ取引開始時点から有効性評価時点までの期間において、ヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に満期日又は償還日の到来する短期投資からなっております。

- (9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

グループ通算制度の適用

当社及び国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しております。

## (重要な会計上の見積り)

## 繰延税金資産の回収可能性

## (1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

|        | (千円)                     |                          |
|--------|--------------------------|--------------------------|
|        | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
| 繰延税金資産 | 1,951,274                | 2,095,039                |

## (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産の回収可能性は、将来の税金負担額を軽減する効果を有するかどうかで判断しております。当該判断は、収益力及びタックス・プランニングに基づく一時差異等加減算前課税所得の充分性により判断しております。

一時差異等加減算前課税所得の見積りは、経営者によって承認された連結予算を基礎として経営環境等が当社グループの業績へ及ぼす影響等を勘案し、各社の回収可能と判断した見積可能期間で算定しております。その結果、将来回収が見込まれないと判断した繰延税金資産については、評価性引当額として取り崩しております。

当該連結予算について、売上高においては受注状況や商談金額、費用においては過去の実績及び人員計画等を勘案し、為替レートを想定した上で純利益を見積もっております。

当該見積り及び当該仮定について、将来の不確実な経済条件の変動及び為替変動等により見直しが必要となった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において認識する繰延税金資産及び法人税等調整額の金額に重要な影響を与える可能性があります。

## (未適用の会計基準等)

## (リースに関する会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

## (1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。

## (2) 適用予定日

2028年12月期の期首より適用予定であります。

## (3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり  
ます。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動資産」の「リース債権及びリース投資資産」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「リース債権及びリース投資資産」515,707千円、「その他」2,188,865千円は、「その他」2,704,573千円として組み替えております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「受取家賃」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「その他」54,626千円は、「受取家賃」23,251千円、「その他」31,374千円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「税金等調整前当期純利益」に含めておりました「受取家賃」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しており、これに伴い、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の小計欄以下において「家賃の受取額」を独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「受取家賃」23,251千円として、また、小計欄以下の「家賃の受取額」23,251千円を独立掲記するとともに、「小計」5,463,495千円を5,440,243千円に変更しております。

(連結貸借対照表関係)

1 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

|      | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|------|--------------------------|--------------------------|
| 受取手形 | 485千円                    | - 千円                     |
| 売掛金  | 9,240,292千円              | 7,473,696千円              |
| 契約資産 | 373,746千円                | 629,969千円                |

2 財務制限条項

当社の連結子会社は、金融機関とリース契約を締結しております。これらの契約には財務制限条項が付されており、抵触した場合、当社グループは借入先からの通知により、期限の利益を喪失する可能性があります。主な内容は次のとおりであります。

前連結会計年度(2024年12月31日)

各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を2,000,000千円以上に維持すること。

各年度の決算期における連結の損益計算書に示される営業損益と連結のキャッシュ・フロー計算書上の減価償却費の合計が2期連続して損失とならないようにすること。

当該契約に基づく債務の当連結会計年度末残高は、リース債務(流動負債)410,848千円及びリース債務(固定負債)1,668,976千円であります。

当連結会計年度(2025年12月31日)

各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を2,000,000千円以上に維持すること。

各年度の決算期における連結の損益計算書に示される営業損益と連結のキャッシュ・フロー計算書上の減価償却費の合計が2期連続して損失とならないようにすること。

当該契約に基づく債務の当連結会計年度末残高は、リース債務(流動負債)409,891千円及びリース債務(固定負債)1,241,992千円であります。

(連結損益計算書関係)

## 1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係） 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

## 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

|          | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|----------|---|---|
| 給料手当     | 7,314,034千円                               | 7,621,419千円                               |
| 研究開発費    | 5,116,486千円                               | 4,958,386千円                               |
| 賞与引当金繰入額 | 648,050千円                                 | 637,559千円                                 |
| 退職給付費用   | 97,486千円                                  | 121,595千円                                 |

## 3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の金額

|  | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|--|---|---|
|  | 5,116,486千円                               | 4,958,386千円                               |

## 4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

|           | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|-----------|---|---|
| 土地        | 1,660,203千円                               | -千円                                       |
| 機械装置及び運搬具 | 300千円                                     | -千円                                       |
| 工具、器具及び備品 | 1,082千円                                   | -千円                                       |
| 計         | 1,661,587千円                               | -千円                                       |

## 5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

|           | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|-----------|---|---|
| 建物及び構築物   | 0千円                                       | -千円                                       |
| 工具、器具及び備品 | 2,492千円                                   | -千円                                       |
| 計         | 2,493千円                                   | -千円                                       |

## 6 減損損失

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 主な場所        | 用途    | 種類                | 金額 (千円) |
|-------------|-------|-------------------|---------|
| 中華人民共和国     | 事業用資産 | 工具、器具及び備品         | 189     |
| オーストラリア     | 事業用資産 | 工具、器具及び備品・使用権資産   | 20,445  |
| ニュージーランド    | 事業用資産 | 工具、器具及び備品         | 2,293   |
| シンガポール共和国   | 事業用資産 | 工具、器具及び備品・使用権資産   | 5,021   |
| タイ王国        | 事業用資産 | 工具、器具及び備品         | 1,049   |
| インド共和国      | 事業用資産 | 建物及び構築物・工具、器具及び備品 | 14,576  |
| マレーシア       | 事業用資産 | 工具、器具及び備品         | 74      |
| フィリピン共和国    | 事業用資産 | 工具、器具及び備品         | 355     |
| インドネシア共和国   | 事業用資産 | 工具、器具及び備品         | 1,784   |
| ベトナム社会主義共和国 | 事業用資産 | 工具、器具及び備品         | 2,747   |
|             | 計     |                   | 48,539  |

当社グループは、事業の地域別セグメントを基礎としてグルーピングを行っており、販売会社用資産については、地域単位でグルーピングを行っております。

また、本社、研究開発施設、自社工場等の独立してキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。

当連結会計年度において、当社グループの一部の事業用資産について、事業活動から生ずる損益が継続してマイナスまたは継続してマイナスとなる見込みであることから、各資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（48,539千円）として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物及び構築物11,265千円、工具、器具及び備品14,567千円、使用権資産22,706千円であります。

なお、回収可能価額は、使用価値により測定しており、回収可能価額を見積り算定しております。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 主な場所        | 用途    | 種類                    | 金額 (千円) |
|-------------|-------|-----------------------|---------|
| オーストラリア     | 事業用資産 | 建物及び構築物               | 143     |
| ニュージーランド    | 事業用資産 | 工具、器具及び備品             | 217     |
| シンガポール共和国   | 事業用資産 | 工具、器具及び備品・使用権資産       | 2,817   |
| インド共和国      | 事業用資産 | 工具、器具及び備品・その他(無形固定資産) | 1,947   |
| マレーシア       | 事業用資産 | 工具、器具及び備品             | 334     |
| インドネシア共和国   | 事業用資産 | 工具、器具及び備品             | 809     |
| ベトナム社会主義共和国 | 事業用資産 | 工具、器具及び備品             | 969     |
|             | 計     |                       | 7,239   |

当社グループは、事業の地域別セグメントを基礎としてグルーピングを行っており、販売会社用資産については、地域単位でグルーピングを行っております。

また、本社、研究開発施設、自社工場等の独立してキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。

当連結会計年度において、当社グループの一部の事業用資産について、事業活動から生ずる損益が継続してマイナスまたは継続してマイナスとなる見込みであることから、各資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（7,239千円）として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物及び構築物143千円、工具、器具及び備品4,821千円、使用権資産1,840千円、その他(無形固定資産)434千円であります。

なお、回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

## 7 事業再編損

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

当社の連結子会社である、Allied Telesis (Thailand) Co., Ltd. 及びAllied Telesis Philippines Inc.における不採算拠点閉鎖に伴う損失を事業再編損として特別損失に計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

### 1 その他の包括利益に係る組替調整額

|                | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|----------------|---|---|
| 為替換算調整勘定       |   |   |
| 当期発生額          | 771,073千円                                 | 80,073千円                                  |
| 組替調整額          | 10,412千円                                  | - 千円                                      |
| 計              | 781,486千円                                 | 80,073千円                                  |
| 退職給付に係る調整額     |   |   |
| 当期発生額          | 3,436千円                                   | 6,008千円                                   |
| 組替調整額          | 1,057千円                                   | 2,352千円                                   |
| 計              | 4,494千円                                   | 3,656千円                                   |
| 法人税等及び税効果調整前合計 | 785,980千円                                 | 76,416千円                                  |
| 法人税等及び税効果額     | 1,050千円                                   | 19,710千円                                  |
| その他の包括利益合計     | 784,930千円                                 | 96,127千円                                  |

## 2 その他の包括利益に係る法人税等及び税効果額

|              | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|--------------|---|---|
| 為替換算調整勘定     |   |   |
| 法人税等及び税効果調整前 | 781,486千円                                 | 80,073千円                                  |
| 法人税等及び税効果額   | - 千円                                      | 19,538千円                                  |
| 法人税等及び税効果調整後 | 781,486千円                                 | 99,611千円                                  |
| 退職給付に係る調整額   |   |   |
| 法人税等及び税効果調整前 | 4,494千円                                   | 3,656千円                                   |
| 法人税等及び税効果額   | 1,050千円                                   | 172千円                                     |
| 法人税等及び税効果調整後 | 3,443千円                                   | 3,483千円                                   |
| その他の包括利益合計   |   |   |
| 法人税等及び税効果調整前 | 785,980千円                                 | 76,416千円                                  |
| 法人税等及び税効果額   | 1,050千円                                   | 19,710千円                                  |
| 法人税等及び税効果調整後 | 784,930千円                                 | 96,127千円                                  |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類   | 当連結会計年度期首   | 増加 | 減少 | 当連結会計年度末    |
|---------|-------------|----|----|-------------|
| 普通株式(株) | 109,731,545 | -  | -  | 109,731,545 |

## 2 自己株式に関する事項

| 株式の種類   | 当連結会計年度期首 | 増加        | 減少 | 当連結会計年度末  |
|---------|-----------|-----------|----|-----------|
| 普通株式(株) | 472       | 2,015,330 | -  | 2,015,802 |

(変動事由の概要)

普通株式の増加は、次のとおりであります。

- ・自己株式の市場買付による増加 : 2,015,200株
- ・単元未満株式買取請求による増加 : 130株

## 3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

| 決議                 | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日         | 効力発生日      |
|--------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|------------|
| 2024年2月14日<br>取締役会 | 普通株式  | 109,731        | 1.00            | 2023年12月31日 | 2024年3月29日 |

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日         | 効力発生日      |
|--------------------|-------|-------|----------------|-----------------|-------------|------------|
| 2025年2月14日<br>取締役会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 646,294        | 6.00            | 2024年12月31日 | 2025年3月28日 |

当連結会計年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

## 1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類   | 当連結会計年度期首   | 増加 | 減少        | 当連結会計年度末    |
|---------|-------------|----|-----------|-------------|
| 普通株式(株) | 109,731,545 | -  | 4,719,369 | 105,012,176 |

(変動事由の概要)

普通株式の減少は、次のとおりであります。

- ・自己株式の消却による減少 : 4,719,369株

## 2 自己株式に関する事項

| 株式の種類   | 当連結会計年度期首 | 増加        | 減少        | 当連結会計年度末 |
|---------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 普通株式(株) | 2,015,802 | 2,703,567 | 4,719,369 | -        |

(変動事由の概要)

普通株式の増加は、次のとおりであります。

- ・自己株式の市場買付による増加 : 2,703,500株
- ・単元未満株式買取請求による増加 : 67株

普通株式の減少は、次のとおりであります。

- ・自己株式の消却による減少 : 4,719,369株

## 3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

| 決議                 | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日         | 効力発生日      |
|--------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|------------|
| 2025年2月14日<br>取締役会 | 普通株式  | 646,294        | 6.00            | 2024年12月31日 | 2025年3月28日 |

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日         | 効力発生日      |
|--------------------|-------|-------|----------------|-----------------|-------------|------------|
| 2026年2月13日<br>取締役会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 840,097        | 8.00            | 2025年12月31日 | 2026年3月28日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

|           | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|-----------|---|---|
| 現金及び預金勘定  | 14,259,346千円                              | 17,029,080千円                              |
| 現金及び現金同等物 | 14,259,346千円                              | 17,029,080千円                              |

## 2 重要な非資金取引の内容

|         | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|---------|---|---|
| 自己株式の消却 | - 千円                                      | 689,853 千円                                |

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、在外連結子会社の本社及び研究開発施設(建物及び構築物)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. 使用权資産

使用权資産の内容

主として、生産拠点における在外連結子会社の不動産リースについて認識される資産であります。

使用权資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

3. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能に係る未経過リース料

(単位: 千円)

|     | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|-----|--------------------------|--------------------------|
| 1年内 | 374,327                  | 397,413                  |
| 1年超 | 1,025,867                | 811,879                  |
| 合計  | 1,400,195                | 1,209,292                |

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組み方針

当社グループは事業計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入やリース取引）を調達しております。

一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金及び契約資産は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規定に従い、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その信用状況を定期的に把握する体制としています。

また、在外子会社の受取手形、売掛金及び契約資産は、為替リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、適宜先物為替予約等を利用してヘッジをしております。

借入金及びリース債務については、営業取引及び設備投資等に係わる資金を短期及び長期の適切な配分により調達しております。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約毎にデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた管理規定に従い、取締役会の承認を得た市場リスク管理施策に基づき、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。また、デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するため、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは各社が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

## (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては、市場価格に基づく価額のほか、市場価額のない場合には合理的に算出された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は含まれておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度（2024年12月31日）

|                    | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価<br>(千円) | 差額<br>(千円) |
|--------------------|--------------------|------------|------------|
| 受取手形、売掛金及び<br>契約資産 | 9,614,524          |            |            |
| 貸倒引当金( 1 )         | 124,205            |            |            |
| 受取手形、売掛金及び<br>契約資産 | 9,490,319          | 9,489,782  | 537        |
| 資産計                | 9,490,319          | 9,489,782  | 537        |
| (1) 長期借入金( 2 )     | 4,297,000          | 4,278,530  | 18,469     |
| (2) リース債務( 3 )     | 3,371,256          | 3,416,855  | 45,599     |
| 負債計                | 7,668,256          | 7,695,386  | 27,129     |
| デリバティブ取引           | -                  | -          | -          |

( 1 ) 受取手形、売掛金及び契約資産に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

( 2 ) 1年以内に期限が到来する長期借入金を含めております。

( 3 ) 1年以内に期限が到来するリース債務を含めております。

当連結会計年度（2025年12月31日）

|                    | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価<br>(千円) | 差額<br>(千円) |
|--------------------|--------------------|------------|------------|
| 受取手形、売掛金及び<br>契約資産 | 8,103,665          |            |            |
| 貸倒引当金( 1)          | 116,758            |            |            |
| 受取手形、売掛金及び<br>契約資産 | 7,986,907          | 7,986,548  | 358        |
| 資産計                | 7,986,907          | 7,986,548  | 358        |
| (1) 長期借入金( 2)      | 3,016,287          | 3,005,583  | 10,704     |
| (2) リース債務( 3)      | 3,316,886          | 3,347,703  | 30,816     |
| 負債計                | 6,333,174          | 6,353,287  | 20,112     |
| デリバティブ取引           | -                  | -          | -          |

( 1 ) 受取手形、売掛金及び契約資産に対して計上している貸倒引当金を控除しています。

( 2 ) 1年以内に期限が到来する長期借入金を含めております。

( 3 ) 1年以内に期限が到来するリース債務を含めております。

(注1) 「現金及び預金」及び「支払手形及び買掛金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 市場価格のない株式等

(単位：千円)

| 区分    | 2024年12月31日 | 2025年12月31日 |
|-------|-------------|-------------|
| 非上場株式 | 1,892       | 1,892       |

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2024年12月31日)

| 区分                 | 1年以内<br>(千円) | 1年超5年以内<br>(千円) | 5年超<br>(千円) |
|--------------------|--------------|-----------------|-------------|
| 現金及び預金             | 14,259,346   | -               | -           |
| 受取手形、売掛金及び契<br>約資産 | 9,594,099    | 20,425          | -           |

当連結会計年度(2025年12月31日)

| 区分                 | 1年以内<br>(千円) | 1年超5年以内<br>(千円) | 5年超<br>(千円) |
|--------------------|--------------|-----------------|-------------|
| 現金及び預金             | 17,029,080   | -               | -           |
| 受取手形、売掛金及び契<br>約資産 | 8,092,667    | 10,998          | -           |

(注4) 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2024年12月31日)

| 区分    | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>2年以内<br>(千円) | 2年超<br>3年以内<br>(千円) | 3年超<br>4年以内<br>(千円) | 4年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>(千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 長期借入金 | 1,280,056    | 1,183,317           | 1,019,272           | 814,354             | -                   | -           |
| リース債務 | 958,793      | 644,278             | 598,905             | 532,531             | 396,548             | 240,198     |

当連結会計年度(2025年12月31日)

| 区分    | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>2年以内<br>(千円) | 2年超<br>3年以内<br>(千円) | 3年超<br>4年以内<br>(千円) | 4年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>(千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 長期借入金 | 1,182,661    | 1,019,272           | 814,354             | -                   | -                   | -           |
| リース債務 | 995,797      | 903,762             | 762,167             | 407,693             | 141,391             | 106,075     |

## 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

## (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2024年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（2025年12月31日）

該当事項はありません。

## (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度（2024年12月31日）

| 区分                    | 時価（千円） |           |      |           |
|-----------------------|--------|-----------|------|-----------|
|                       | レベル1   | レベル2      | レベル3 | 合計        |
| 受取手形、売掛金及び契約資産        | -      | 9,489,782 | -    | 9,489,782 |
| 資産計                   | -      | 9,489,782 | -    | 9,489,782 |
| 長期借入金<br>（1年内返済予定を含む） | -      | 4,278,530 | -    | 4,278,530 |
| リース債務<br>（1年内返済予定を含む） | -      | 3,416,855 | -    | 3,416,855 |
| 負債計                   | -      | 7,695,386 | -    | 7,695,386 |

当連結会計年度（2025年12月31日）

| 区分                    | 時価（千円） |           |      |           |
|-----------------------|--------|-----------|------|-----------|
|                       | レベル1   | レベル2      | レベル3 | 合計        |
| 受取手形、売掛金及び契約資産        | -      | 7,986,548 | -    | 7,986,548 |
| 資産計                   | -      | 7,986,548 | -    | 7,986,548 |
| 長期借入金<br>（1年内返済予定を含む） | -      | 3,005,583 | -    | 3,005,583 |
| リース債務<br>（1年内返済予定を含む） | -      | 3,347,703 | -    | 3,347,703 |
| 負債計                   | -      | 6,353,287 | -    | 6,353,287 |

## (注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

受取手形、売掛金及び契約資産

受取手形、売掛金及び契約資産の時価については、期末日より決済期日が1年超の売掛金及び契約資産はリスクフリーレートに信用リスクを加味した利率により割り引いて算出する方法によっており、1年以内の受取手形、売掛金及び契約資産は短期間で決済されるため、当該帳簿価額によっており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金、リース債務

これらは元利金の合計額を新規に同様の借入またはリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっており、レベル2の時価に分類しております。変動金利による長期借入金は、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。金利スワップの特例処理の対象とされた長期借入金は、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算出する方法によっております。

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(2024年12月31日)

非上場株式(連結貸借対照表計上額1,892千円)については、市場価格のない株式等であることから、非上場株式の時価を記載しておりません。

当連結会計年度(2025年12月31日)

非上場株式(連結貸借対照表計上額1,892千円)については、市場価格のない株式等であることから、非上場株式の時価を記載しておりません。

## (退職給付関係)

## 1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の退職一時金制度及び確定拠出年金制度を設けております。

## 2 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

|              | (千円)                                      |   |
|--------------|---|---|
|              | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
| 退職給付債務の期首残高  | 601,304                                   | 566,538                                   |
| 勤務費用         | 27,498                                    | 34,390                                    |
| 利息費用         | 2,321                                     | 2,488                                     |
| 数理計算上の差異の発生額 | 624                                       | 953                                       |
| 退職給付の支払額     | 70,475                                    | 134,432                                   |
| その他          | 5,264                                     | 5,191                                     |
| 退職給付債務の期末残高  | 566,538                                   | 475,128                                   |

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

|              | (千円)                                      |   |
|--------------|---|---|
|              | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
| 年金資産の期首残高    | 34,614                                    | 40,830                                    |
| 期待運用収益       | 450                                       | 614                                       |
| 数理計算上の差異の発生額 | 3,065                                     | 2,824                                     |
| 事業主からの拠出額    | 1,200                                     | -   |
| その他          | 1,499                                     | 1,499                                     |
| 年金資産の期末残高    | 40,830                                    | 45,768                                    |

## (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

|                       | (千円)                     |                          |
|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
|                       | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
| 積立型制度の退職給付債務          | 31,927                   | 35,082                   |
| 年金資産                  | 40,830                   | 45,768                   |
|                       | 8,902                    | 10,685                   |
| 非積立型制度の退職給付債務         | 534,610                  | 440,046                  |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 525,707                  | 429,360                  |
| 退職給付に係る負債             | 534,610                  | 440,046                  |
| 退職給付に係る資産             | 8,902                    | 10,685                   |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 525,707                  | 429,360                  |

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

|                 | (千円)                                      |   |
|-----------------|---|---|
|                 | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
| 勤務費用            | 27,498                                    | 34,390                                    |
| 利息費用            | 2,321                                     | 2,488                                     |
| 期待運用収益          | 450                                       | 614                                       |
| 数理計算上の差異の費用処理額  | 1,057                                     | 375                                       |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 30,427                                    | 36,639                                    |

1 上記退職給付費用以外に当社グループの事業再編に伴う解雇補償金(当連結会計年度29,532千円)を特別損失の事業再編損に含めて計上しております。

## (5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

(千円)

|          | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|----------|---|---|
| 数理計算上の差異 | 4,494                                     | 3,656                                     |
| 合計       | 4,494                                     | 3,656                                     |

## (6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

(千円)

|             | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|-------------|--------------------------|--------------------------|
| 未認識数理計算上の差異 | 4,649                    | 56                       |
| 合計          | 4,649                    | 56                       |

## (7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

|        | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|--------|--------------------------|--------------------------|
| 株式     | 48%                      | 51%                      |
| 債券     | 27%                      | 26%                      |
| 現金及び預金 | 14%                      | 12%                      |
| その他    | 11%                      | 11%                      |
| 合計     | 100%                     | 100%                     |

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

|           | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|-----------|---|---|
| 割引率       | 0.30%                                     | 0.30%                                     |
| 長期期待運用収益率 | 1.24%                                     | 1.27%                                     |

## 3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度111,335千円、当連結会計年度138,576千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

|                             | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <b>繰延税金資産</b>               |                          |                          |
| 棚卸資産評価損                     | 325,858千円                | 224,829千円                |
| 減価償却費                       | 361,978千円                | 353,509千円                |
| 繰越欠損金                       | 1,550,469千円              | 1,598,368千円              |
| 試験研究費                       | 1,415,158千円              | 1,363,037千円              |
| 退職給付に係る負債                   | 146,599千円                | 121,319千円                |
| 投資有価証券評価損                   | 21,760千円                 | 22,399千円                 |
| 減損損失                        | 125,176千円                | 110,530千円                |
| 賞与引当金                       | 195,981千円                | 195,504千円                |
| その他                         | 531,984千円                | 656,810千円                |
| 繰延税金資産小計                    | 4,674,966千円              | 4,646,310千円              |
| 税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額<br>(注) 2 | 1,425,053千円              | 1,504,541千円              |
| 将来減算一時差異等の合計に係る評価性<br>引当額   | 1,298,639千円              | 1,046,729千円              |
| 評価性引当額小計 (注) 1              | 2,723,692千円              | 2,551,271千円              |
| 繰延税金資産合計                    | 1,951,274千円              | 2,095,039千円              |
| <b>繰延税金負債</b>               |                          |                          |
| 海外子会社の税制変更に係る税効果            | 21,201千円                 | 21,340千円                 |
| その他                         | 35,658千円                 | 681千円                    |
| 繰延税金負債合計                    | 56,860千円                 | 22,021千円                 |
| 繰延税金資産の純額                   | 1,894,413千円              | 2,073,017千円              |

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目が含まれております。

|               | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|---------------|--------------------------|--------------------------|
| 固定資産 - 繰延税金資産 | 1,951,274千円              | 2,095,039千円              |
| 固定負債 - 繰延税金負債 | 56,860千円                 | 22,021千円                 |

(注) 1. 評価性引当額が172,420千円減少しております。この減少は当社及び一部の連結子会社において将来減算一時差異に係る繰延税金資産の回収可能額を見直したことによるものです。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額  
前連結会計年度 (2024年12月31日)

|                   | (千円)   |             |             |             |             |           |             |
|-------------------|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
|                   | 1年以内   | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 | 5年超       | 合計          |
| 税務上の繰越<br>欠損金 (a) | 19,746 | 7,636       | 60,042      | 6,885       | 24,140      | 1,432,016 | 1,550,469   |
| 評価性引当額            | 19,746 | 7,636       | 60,042      | 6,885       | 10,812      | 1,319,929 | 1,425,053   |
| 繰延税金資産            | -      | -           | -           | -           | 13,328      | 112,087   | (b) 125,416 |

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金1,550,469千円 (法定実効税率を乗じた額) について、繰延税金資産125,416千円を計上しております。当該繰延税金資産125,416千円は、当社及び連結子会社における税務上の繰越欠損金の残高1,550,469千円 (法定実効税率を乗じた額) の一部について認識したものであります。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度（2025年12月31日）

(千円)

|                   | 1年以内  | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 | 5年超       | 合計         |
|-------------------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|------------|
| 税務上の繰越<br>欠損金 (a) | 7,636 | 21,857      | 30,619      | 17,512      | 18,189      | 1,502,554 | 1,598,368  |
| 評価性引当額            | 7,636 | 21,857      | 27,628      | 17,512      | 18,189      | 1,411,718 | 1,504,541  |
| 繰延税金資産            | -     | -           | 2,991       | -           | -           | 90,836    | (b) 93,827 |

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金1,598,368千円（法定実効税率を乗じた額）について、繰延税金資産93,827千円を計上しております。当該繰延税金資産93,827千円は、連結子会社における税務上の繰越欠損金の残高1,598,368千円（法定実効税率を乗じた額）の一部について認識したものであります。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

- 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

|                   | 前連結会計年度<br>(2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(2025年12月31日) |
|-------------------|--------------------------|--------------------------|
| 法定実効税率<br>(調整)    | 30.6%                    | 30.6%                    |
| 海外子会社の税率差異        | 5.7%                     | 4.4%                     |
| 永久差異              | 4.4%                     | 1.5%                     |
| 住民税均等割等           | 1.2%                     | 1.6%                     |
| 国外源泉税額            | 1.0%                     | 1.5%                     |
| 外国税額              | 2.1%                     | 3.8%                     |
| 試験研究費税額控除         | 2.1%                     | 5.8%                     |
| 繰越欠損金の減少          | 0.6%                     | 0.3%                     |
| 税率変更による影響額        | - %                      | 0.3%                     |
| 評価性引当の増減          | 0.4%                     | 4.6%                     |
| その他               | 0.7%                     | 0.2%                     |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 32.4%                    | 21.4%                    |

- 3 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社及び国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

- 4 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する連結会計年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年1月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

この税率変更に伴う当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

(収益認識関係)

## 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

(単位：千円)

|                       | 報告セグメント    |           |           |           | 合計         |
|-----------------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
|                       | 日本         | 米州        | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2 |            |
| 一時点で移転される財及びサービス      | 15,427,216 | 6,137,936 | 5,490,023 | 3,375,879 | 30,431,055 |
| 一定の期間にわたり移転される財及びサービス | 14,372,920 | 2,595,588 | 485,716   | 211,239   | 17,665,464 |
| 顧客との契約から生じる収益         | 29,800,137 | 8,733,524 | 5,975,740 | 3,587,118 | 48,096,520 |
| その他の収益(注) 3           | 362,205    | -         | -         | -         | 362,205    |
| 外部顧客への売上高             | 30,162,342 | 8,733,524 | 5,975,740 | 3,587,118 | 48,458,725 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア。

3 「その他の収益」は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 2007年3月30日)の範囲に含まれるリース取引等による収益であります。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：千円)

|                       | 報告セグメント    |           |           |           | 合計         |
|-----------------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
|                       | 日本         | 米州        | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2 |            |
| 一時点で移転される財及びサービス      | 16,522,986 | 5,283,270 | 5,584,434 | 2,659,618 | 30,050,308 |
| 一定の期間にわたり移転される財及びサービス | 16,394,788 | 2,492,146 | 454,431   | 253,308   | 19,594,674 |
| 顧客との契約から生じる収益         | 32,917,774 | 7,775,416 | 6,038,866 | 2,912,926 | 49,644,983 |
| その他の収益(注) 3           | 305,081    | -         | -         | -         | 305,081    |
| 外部顧客への売上高             | 33,222,855 | 7,775,416 | 6,038,866 | 2,912,926 | 49,950,064 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア。

3 「その他の収益」は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 2007年3月30日)の範囲に含まれるリース取引等による収益であります。

## 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

## 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

## (1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

|                     | 当連結会計年度    |
|---------------------|------------|
| 顧客との契約から生じた債権(期首残高) | 7,647,006  |
| 顧客との契約から生じた債権(期末残高) | 9,240,778  |
| 契約資産(期首残高)          | 440,400    |
| 契約資産(期末残高)          | 373,746    |
| 契約負債(期首残高)          | 9,217,970  |
| 契約負債(期末残高)          | 10,748,344 |

契約資産は、導入支援サービス、及びこれに付随する製品販売において期末時点で履行義務の進捗により収益

を認識しておりますが、未請求の代金に係る対価に対する当社グループの権利に関するものであります。契約資産は対価に対する当社グループの権利が無条件になった時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。

契約負債は、主に、保守サービス契約に基づき顧客から受領した前受収益であり、翌連結会計年度以降に充足する履行義務に対応するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、3,574,111千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

|         | 当連結会計年度    |
|---------|------------|
| 1年以内    | 4,228,306  |
| 1年超2年以内 | 2,380,443  |
| 2年超3年以内 | 1,872,095  |
| 3年超     | 2,267,499  |
| 合計      | 10,748,344 |

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

|                     | 当連結会計年度    |
|---------------------|------------|
| 顧客との契約から生じた債権(期首残高) | 9,240,778  |
| 顧客との契約から生じた債権(期末残高) | 7,473,696  |
| 契約資産(期首残高)          | 373,746    |
| 契約資産(期末残高)          | 629,969    |
| 契約負債(期首残高)          | 10,748,344 |
| 契約負債(期末残高)          | 11,791,370 |

契約資産は、導入支援サービス、及びこれに付随する製品販売において期末時点で履行義務の進捗により収益を認識しておりますが、未請求の代金に係る対価に対する当社グループの権利に関するものであります。契約資産は対価に対する当社グループの権利が無条件になった時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。

契約負債は、主に、保守サービス契約に基づき顧客から受領した前受収益であり、翌連結会計年度以降に充足する履行義務に対応するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、4,228,306千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

|         | 当連結会計年度    |
|---------|------------|
| 1年以内    | 4,592,302  |
| 1年超2年以内 | 2,662,255  |
| 2年超3年以内 | 1,965,670  |
| 3年超     | 2,571,141  |
| 合計      | 11,791,370 |

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関である取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、情報通信・ネットワーク事業における製品を生産・販売しており、各地域において包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、生産・販売体制を基礎とした所在地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「米州」、「EMEA（ヨーロッパ、中東及びアフリカ）」及び「APAC（アジア・オセアニア）」の4つの所在地域を報告セグメントとしております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

(単位：千円)

|                           | 報告セグメント    |            |           |            |            | 調整額<br>(注) 3 | 連結財務<br>諸表計上額<br>(注) 4 |
|---------------------------|------------|------------|-----------|------------|------------|--------------|------------------------|
|                           | 日本         | 米州         | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2  | 計          |              |                        |
| 売上高                       |            |            |           |            |            |              |                        |
| (1) 外部顧客への売上高             | 30,162,342 | 8,733,524  | 5,975,740 | 3,587,118  | 48,458,725 | -            | 48,458,725             |
| (2) セグメント間の内部<br>売上高又は振替高 | 508,344    | 63,468     | 106,318   | 10,207,925 | 10,886,058 | 10,886,058   | -                      |
| 計                         | 30,670,687 | 8,796,993  | 6,082,058 | 13,795,044 | 59,344,783 | 10,886,058   | 48,458,725             |
| セグメント利益又は損失( )            | 1,696,150  | 1,120,578  | 263,180   | 262,986    | 2,816,923  | 607,914      | 3,424,837              |
| セグメント資産                   | 37,929,259 | 14,234,668 | 3,126,261 | 10,642,463 | 65,932,652 | 19,446,146   | 46,486,505             |
| セグメント負債                   | 23,124,667 | 5,018,189  | 6,639,174 | 8,641,549  | 43,423,581 | 16,388,684   | 27,034,896             |
| その他の項目                    |            |            |           |            |            |              |                        |
| 減価償却費                     | 263,416    | 274,542    | 97,016    | 552,087    | 1,187,062  | -            | 1,187,062              |
| 有形固定資産及び<br>無形固定資産の増加額    | 237,029    | 164,953    | 113,574   | 696,378    | 1,211,936  | -            | 1,211,936              |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア。

3 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失の調整額607,914千円には、セグメント間取引消去265,965千円及びセグメント間取引に係る棚卸資産の調整額等341,949千円が含まれております。

(2) セグメント資産の調整額 19,446,146千円には、セグメント間取引消去 19,418,272千円及び棚卸資産の調整額 27,874千円が含まれております。

(3) セグメント負債の調整額 16,388,684千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

4 セグメント利益又は損失の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

(単位：千円)

|                           | 報告セグメント    |            |           |            |            | 調整額<br>(注) 3 | 連結財務<br>諸表計上額<br>(注) 4 |
|---------------------------|------------|------------|-----------|------------|------------|--------------|------------------------|
|                           | 日本         | 米州         | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2  | 計          |              |                        |
| 売上高                       |            |            |           |            |            |              |                        |
| (1) 外部顧客への売上高             | 33,222,855 | 7,775,416  | 6,038,866 | 2,912,926  | 49,950,064 | -            | 49,950,064             |
| (2) セグメント間の内部<br>売上高又は振替高 | 259,368    | 17,407     | 23,387    | 10,601,849 | 10,902,013 | 10,902,013   | -                      |
| 計                         | 33,482,223 | 7,792,824  | 6,062,253 | 13,514,776 | 60,852,078 | 10,902,013   | 49,950,064             |
| セグメント利益                   | 2,321,038  | 1,018,748  | 271,552   | 477,951    | 4,089,291  | 139,465      | 4,228,756              |
| セグメント資産                   | 39,409,840 | 13,002,407 | 2,409,309 | 12,197,566 | 67,019,124 | 18,290,272   | 48,728,852             |
| セグメント負債                   | 23,204,743 | 3,572,990  | 6,043,783 | 9,841,876  | 42,663,394 | 15,268,181   | 27,395,212             |
| その他の項目                    |            |            |           |            |            |              |                        |
| 減価償却費                     | 222,425    | 281,024    | 89,245    | 514,563    | 1,107,259  | -            | 1,107,259              |
| 有形固定資産及び<br>無形固定資産の増加額    | 148,905    | 156,394    | 92,672    | 1,106,668  | 1,504,641  | -            | 1,504,641              |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2 アジア・オセアニア。

3 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額139,465千円には、セグメント間取引消去229,027千円及びセグメント間取引に係る棚卸資産の調整額等 89,562千円が含まれております。

(2) セグメント資産の調整額 18,290,272千円には、セグメント間取引消去 18,172,835千円及び棚卸資産の調整額 117,437千円が含まれております。

(3) セグメント負債の調整額 15,268,181千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

4 セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 【関連情報】

前連結会計年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

## 1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%超であるため、記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

| 日本         | アメリカ      | その他米州   | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2 | 合計         |
|------------|-----------|---------|-----------|-----------|------------|
| 32,320,599 | 5,912,058 | 476,673 | 5,975,740 | 3,773,652 | 48,458,725 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ

2 アジア・オセアニア。

3 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

(単位：千円)

| 日本        | アメリカ      | EMEA(注) 1 | シンガポール  | その他<br>APAC(注) 2 | 合計        |
|-----------|-----------|-----------|---------|------------------|-----------|
| 1,079,977 | 3,879,135 | 280,401   | 332,207 | 1,178,729        | 6,750,450 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ

2 アジア・オセアニア。

## 3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

| 顧客の名称又は氏名       | 売上高       | 関連するセグメント名 |
|-----------------|-----------|------------|
| ダイワボウ情報システム株式会社 | 8,196,117 | 日本         |

当連結会計年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

### 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%超であるため、記載を省略しております。

### 2. 地域ごとの情報

#### (1) 売上高

(単位：千円)

| 日本         | アメリカ      | その他米州   | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2 | 合計         |
|------------|-----------|---------|-----------|-----------|------------|
| 35,336,947 | 5,011,175 | 486,170 | 6,039,194 | 3,076,576 | 49,950,064 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ

2 アジア・オセアニア。

3 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

#### (2) 有形固定資産

(単位：千円)

| 日本      | アメリカ      | EMEA(注) 1 | シンガポール  | その他<br>APAC(注) 2 | 合計        |
|---------|-----------|-----------|---------|------------------|-----------|
| 971,026 | 3,627,239 | 269,442   | 924,187 | 1,208,924        | 7,000,820 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ

2 アジア・オセアニア。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

| 顧客の名称又は氏名       | 売上高       | 関連するセグメント名 |
|-----------------|-----------|------------|
| ダイワボウ情報システム株式会社 | 8,142,547 | 日本         |

#### 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

(単位：千円)

| 日本 | 米州 | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2 | 合計     |
|----|----|-----------|-----------|--------|
| -  | -  | -         | 48,539    | 48,539 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ

2 アジア・オセアニア。

当連結会計年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

(単位：千円)

| 日本 | 米州 | EMEA(注) 1 | APAC(注) 2 | 合計    |
|----|----|-----------|-----------|-------|
| -  | -  | -         | 7,239     | 7,239 |

(注) 1 ヨーロッパ、中東及びアフリカ

2 アジア・オセアニア。

#### 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

#### 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

## 関連当事者との取引

## 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

| 種類             | 会社等の名称又は氏名     | 所在地 | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係        | 取引の内容    | 取引金額(千円)  | 科目 | 期末残高(千円) |
|----------------|----------------|-----|--------------|-----------|-------------------|------------------|----------|-----------|----|----------|
| 役員             | サチエオオシマ        | -   | -            | 当社代表取締役   | -                 | 当社代表取締役、子会社代表取締役 | 子会社株式の取得 | 1,185,704 | -  | -        |
| 役員<br>の<br>近親者 | Haydee Stanton | -   | -            | -         | -                 | サチエオオシマの母        | 子会社株式の取得 | 52,697    | -  | -        |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針

取引金額は第三者機関により算定した評価額を基礎として勘案して決定したものであります。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

|                         | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 1株当たり純資産額               | 180円58銭                                   | 203円12銭                                   |
| 1株当たり当期純利益金額            | 32円97銭                                    | 27円55銭                                    |
| 潜在株式調整後1株当たり<br>当期純利益金額 | -   | -   |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目  | 前連結会計年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|---|---|---|
| 1株当たり当期純利益金額  |   |   |
| 連結損益計算書上の<br>親会社株主に帰属する当期純利益                          | 3,601,588千円                               | 2,919,832千円                               |
| 普通株主に帰属しない金額  | -千円                                       | -千円                                       |
| 普通株式に係る<br>親会社株主に帰属する当期純利益                            | 3,601,588千円                               | 2,919,832千円                               |
| 普通株式の期中平均株式数  | 109,245,128株                              | 106,000,001株                              |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額                                   |   |   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益調整額                                    | -千円                                       | -千円                                       |
| 普通株式増加数   | -株  | -株  |
| (うち新株予約権)   | (-株)                                      | (-株)                                      |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり<br>当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要 | -   | -   |

(重要な後発事象)

(事業譲渡)

当社は、2026年1月17日開催の取締役会において、当社の100%子会社であるAllied Telesis Capital Corp.のIPトリプルプレイ・サービス事業をWarrior Communications, Inc.に譲渡することを決議いたしました。

(1) 事業分離の概要

分離先企業の名称

Warrior Communications, Inc.

分離した事業の内容

Allied Telesis Capital Corp.のIPトリプルプレイ・サービス事業

事業分離を行った主な理由

当社子会社であるAllied Telesis Capital Corp.は長年にわたり米軍基地及びその周辺地域に住宅用・非住宅用ケーブルテレビ、インターネット及び電話サービスを提供してきました（当社グループでは、当該サービスを提供する事業をIPトリプルプレイ・サービス事業と称しています）。

しかし、顧客によるクラウド型電話サービスやストリーミングサービスへの移行に伴い、当社グループにおける当該事業の年間収益は減少傾向にあります。そして、当該事業は、米国関係当局との契約に基づいて実施されているところ、現行の契約が2028年4月に満了することから、当社グループとしては、米国関係当局との契約を更新又は延長することは企図せず、当該事業を譲渡し、その代金をコア事業への投資に充当することが、中長期的な企業価値の向上に資すると判断いたしました。

事業譲渡の日程

- (1) 取締役会決議日 2026年1月17日
- (2) 事業譲渡期日 2026年2月27日

法的形式

受取対価を現金等の財産のみとする事業譲渡

その他

なお、本事業譲渡に関連して、米国関係当局との契約の契約当事者をAllied Telesis Capital Corp.から相手方に置き換えるために、米国関係当局に対して所定の契約更改手続を講じる必要があります。本事業譲渡にかかる契約上、相手方は、その締結日以降、所定の期間内に当該契約更改手続を完了する義務を負っており、これを履行できない場合、本事業譲渡は解除されることとなっています。

(2) 分離した事業が含まれていた報告セグメント

米州セグメント

## (ストック・オプション(新株予約権)の発行)

当社は、2026年2月12日開催の取締役会において、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、ストック・オプションとして特に有利な条件をもって新株予約権(以下「本新株予約権」という。)を発行することについて決議いたしました。なお、この新株予約権の発行は、2025年3月27日開催の当社第38回定時株主総会の決議による当社取締役会への委任に基づき決議をしたものです。

## 1. 新株予約権の割当ての対象者及びその人数並びに割り当てる新株予約権の数

| 割当ての対象者        | 人数  | 割り当てる新株予約権の数 |
|----------------|-----|--------------|
| 当社の監査等委員でない取締役 | 4名  | 10,800個      |
| 当社の監査等委員である取締役 | 1名  | 800個         |
| 当社の従業員         | 1名  | 300個         |
| 当社子会社の取締役      | 3名  | 2,300個       |
| 当社子会社の従業員      | 5名  | 2,800個       |
| 合計             | 14名 | 17,000個      |

## 2. 募集新株予約権の総数

17,000個

なお、本新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式の総数は、当社普通株式1,700,000株とし、下記5.(1)により本新株予約権にかかる付与株式数が調整された場合は、調整後付与株式数に本新株予約権の数を乗じた数とする。

## 3. 募集新株予約権の割当日

2026年2月26日(以下「割当日」という。)

## 4. 募集新株予約権と引換えに払い込む金銭

本新株予約権と引換えに金銭の払込みを要しないこととする。

## 5. 募集新株予約権の内容

## (1) 本新株予約権の目的である株式の種類及び数

本新株予約権1個当たりの目的である株式の数(以下「付与株式数」という。)は当社普通株式100株とする。

なお、本新株予約権割当日後、当社が普通株式について株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合は、本新株予約権のうち当該時点で権利行使されていないものについて、次の算式により付与株式数を調整する。ただし、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割又は併合の比率}$$

上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は合理的な範囲で付与株式数を調整することができるものとする。なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

## (2) 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額又はその算定方法

本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、本新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの金銭の額(以下「行使価額」という。)に付与株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、本新株予約権の発行を決議した日の株式会社東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値(終値がない場合は、それに先立つ直近日の終値)である376円とする。なお、行使価額の調整は以下のとおりとする。

本新株予約権割当日後、当社が普通株式について株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割又は併合の比率}}$$

本新株予約権割当日後、当社が当社普通株式の時価を下回る価額で新株式の発行又は本新株予約権自己株式の処分を行う場合(会社法第194条の規定(単元未満株主による単元未満株式売渡請求)に基づく自己株式の売渡し、当社普通株式に転換される証券若しくは転換できる証券の転換、又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の行使による場合を除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の算式において「既発行株式数」は、当社の発行済普通株式総数から当社の保有する普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合は、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替える。

上記のほか、本新株予約権当日後、他の種類株式の普通株主への無償割当て又は他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合等、行使価額の調整をすることが適切な場合は、かかる割当て又は配当等の条件等を勧案の上、当社は合理的な範囲で行使価額を調整することができるものとする。

(3) 本新株予約権を行使することができる期間

2028年2月15日（日本時間）から2036年2月12日（日本時間）とする。

（権利行使期間に関する補足）

2026年2月12日開催の当社取締役会における当該新株予約権の発行決議において、当該新株予約権の内容としての権利行使期間は「2028年2月15日から2036年2月12日」といたしましたが、2026年2月13日に開示した中期経営計画（2026 - 2028）の期間との整合性を取るため、当該新株予約権割当て対象者との間で締結した新株予約権割当て契約書において、権利行使期間を「2029年2月14日から2036年2月12日まで」とすることを合意しております。

(4) 本新株予約権の行使の条件

本新株予約権者は、本新株予約権行使時において、当社の従業員、監査等委員でない取締役、監査等委員である取締役及び当社グループ会社の従業員、取締役、監査役の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、当社又は当社グループ会社の申し入れによる辞任、退職等正当な理由に基づく場合はこの限りではない。

新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。

(5) 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

本新株予約権の行使により株式を発行する場合に増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合に増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

(6) 譲渡による本新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。

(7) 本新株予約権の取得条項

当社が消滅会社となる合併についての合併契約、当社が分割会社となる吸収分割についての吸収分割契約若しくは新設分割についての新設分割計画、当社が完全子会社となる株式交換についての株式交換契約又は当社が完全子会社となる株式移転計画が、当社株主総会で承認されたとき（株主総会による承認が不要な場合は、当社取締役会決議がなされたとき）は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権を無償で取得することができる。

本新株予約権者が上記(4)の新株予約権の行使の条件に該当しなくなった場合には、当社は、当社取締役会が別途定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。

(8) 組織再編における再編対象会社の新株予約権の交付の内容に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を有する本新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅するものとする。

ただし、次の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

本新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記(1)に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記(2)に準じて決定する。

新株予約権を行使することができる期間

上記(3)に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記(3)に定める行使期間の満了日までとする。

新株予約権の行使の条件

上記(4)に準じて決定する。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記(5)に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

新株予約権の取得条項

上記(7)に準じて決定する。

(9) 本新株予約権を行使した際に生ずる1株に満たない端数の取決め

本新株予約権を行使した本新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てる。

(10) 本新株予約権にかかる新株予約権証券は発行しない。

(11) その他

会社法その他の法律の改正等、本要項の規定中読み替えその他の措置が必要となる場合には、当社は必要な措置を講じる。

(12) 本新株予約権の公正価額の算定方法

当社の監査等委員でない取締役及び監査等委員である取締役に対する金銭でない報酬等の額の算定の前提となる本新株予約権の公正価額は、割当日における諸条件を基にブラック・ショールズ・モデルを用いて算定する。

(自己株式の取得)

当社は、2026年3月9日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応して機動的な資本政策の遂行及び株主還元の一環として、自己株式の取得を行います。

(2) 取得に係る事項の内容

取得する株式の種類：当社普通株式

取得する株式の数：100万株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合0.95%)

株式取得価額の総額：3億円(上限)

自己株式取得の期間：2026年3月10日から2026年4月10日まで(約定日ベース)

取得方法：東京証券取引所における市場買付

## 【連結附属明細表】

## 【借入金等明細表】

| 区分  | 当期末残高<br>(千円) | 当期末残高<br>(千円) | 平均利率(%)<br>(注) 1 | 返済期限        |
|---|---------------|---------------|------------------|-------------|
| 1年以内に返済予定の長期借入金                               | 1,280,056     | 1,182,661     | 1.11             | -           |
| 1年以内に返済予定のリース債務                               | 958,793       | 995,797       | 4.07             | -           |
| その他の有利子負債<br>1年以内に返済予定の長期未払金<br>(割賦)          | 48,848        | 8,032         | 2.46             | -           |
| 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)(注) 2                  | 3,016,943     | 1,833,626     | 1.10             | 2027年～2028年 |
| リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)(注) 2                  | 2,412,462     | 2,321,089     | 4.37             | 2027年～2032年 |
| その他の有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)<br>長期未払金(割賦)(注) 2 | 10,729        | 2,696         | 3.85             | 2027年～2029年 |
| 合計  | 7,727,833     | 6,343,903     | -                | -           |

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金、リース債務及び長期未払金(割賦)(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

|           | 1年超2年以内<br>(千円) | 2年超3年以内<br>(千円) | 3年超4年以内<br>(千円) | 4年超5年以内<br>(千円) |
|-----------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 長期借入金     | 1,019,272       | 814,354         | -               | -               |
| リース債務     | 903,762         | 762,167         | 407,693         | 141,391         |
| 長期未払金(割賦) | 1,155           | 1,155           | 385             | -               |

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

|  | 第1四半期<br>連結累計期間 | 中間連結会計期間   | 第3四半期<br>連結累計期間 | 当連結会計年度    |
|--|-----------------|------------|-----------------|------------|
| 売上高(千円)                                | 12,830,764      | 23,717,323 | 36,262,263      | 49,950,064 |
| 税金等調整前中間(四半期)<br>(当期)純利益金額(千円)         | 889,278         | 842,538    | 2,501,354       | 3,718,794  |
| 親会社株主に帰属する中間<br>(四半期)(当期)純利益金額<br>(千円) | 518,145         | 521,593    | 1,665,159       | 2,919,832  |
| 1株当たり中間(四半期)<br>(当期)純利益金額(円)           | 4.82            | 4.89       | 15.66           | 27.55      |

|                  | 第1四半期<br>連結会計期間 | 第2四半期<br>連結会計期間 | 第3四半期<br>連結会計期間 | 第4四半期<br>連結会計期間 |
|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1株当たり四半期純利益金額(円) | 4.82            | 0.03            | 10.83           | 11.95           |

(注) 第1四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間に係る財務情報に対するレビュー : 無

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

|             | 前事業年度<br>(2024年12月31日) | 当事業年度<br>(2025年12月31日) |
|-------------|------------------------|------------------------|
| <b>資産の部</b> |                        |                        |
| 流動資産        |                        |                        |
| 現金及び預金      | 9,041,739              | 12,775,013             |
| 受取手形        | 485                    | -                      |
| 売掛金         | 1 1,887,354            | 1 679,830              |
| 前払費用        | 82,861                 | 93,307                 |
| その他         | 1 1,010,786            | 1 519,617              |
| 貸倒引当金       | 297,448                | 87,287                 |
| 流動資産合計      | 11,725,780             | 13,980,481             |
| 固定資産        |                        |                        |
| 有形固定資産      |                        |                        |
| 建物          | 101,234                | 89,552                 |
| 機械及び装置      | 1,312                  | 984                    |
| 工具、器具及び備品   | 11,454                 | 6,876                  |
| 土地          | 63,125                 | 63,125                 |
| 有形固定資産合計    | 177,126                | 160,538                |
| 無形固定資産      |                        |                        |
| ソフトウェア      | 50,453                 | 35,857                 |
| その他         | 337                    | 285                    |
| 無形固定資産合計    | 50,790                 | 36,142                 |
| 投資その他の資産    |                        |                        |
| 投資有価証券      | 1,892                  | 1,892                  |
| 関係会社株式      | 10,771,765             | 10,744,891             |
| 関係会社長期貸付金   | 143,840                | -                      |
| 繰延税金資産      | 14,025                 | 94,012                 |
| 関係会社長期未収入金  | 902,653                | 893,409                |
| その他         | 345,021                | 341,421                |
| 貸倒引当金       | 1,046,493              | 893,409                |
| 投資その他の資産合計  | 11,132,704             | 11,182,217             |
| 固定資産合計      | 11,360,622             | 11,378,898             |
| 資産合計        | 23,086,402             | 25,359,380             |

(単位：千円)

|               | 前事業年度<br>(2024年12月31日) | 当事業年度<br>(2025年12月31日) |
|---------------|------------------------|------------------------|
| <b>負債の部</b>   |                        |                        |
| 流動負債          |                        |                        |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,139,276              | 1,119,255              |
| 買掛金           | 1 9,549                | 1 4,704                |
| 未払金           | 1 492,507              | 1 618,054              |
| 未払費用          | 56,343                 | 52,870                 |
| リース債務         | 2,757                  | -                      |
| 未払法人税等        | 1,210                  | 3,758                  |
| 預り金           | 7,778                  | 11,767                 |
| 賞与引当金         | 33,936                 | 42,420                 |
| 関係会社立替債務      | 994,358                | 2,988,756              |
| その他           | 163,645                | 112,408                |
| 流動負債合計        | 2,901,364              | 4,953,996              |
| 固定負債          |                        |                        |
| 長期借入金         | 2,952,881              | 1,833,626              |
| 退職給付引当金       | 14,441                 | 40,835                 |
| 関係会社事業損失引当金   | 4,326,648              | 4,925,024              |
| 債務保証損失引当金     | 2 137,070              | -                      |
| 資産除去債務        | 6,010                  | 6,010                  |
| その他           | 3,852                  | 2,696                  |
| 固定負債合計        | 7,440,903              | 6,808,191              |
| 負債合計          | 10,342,267             | 11,762,188             |
| <b>純資産の部</b>  |                        |                        |
| 株主資本          |                        |                        |
| 資本金           | 10,019,161             | 10,019,161             |
| 資本剰余金         |                        |                        |
| 資本準備金         | 211,486                | 211,486                |
| 資本剰余金合計       | 211,486                | 211,486                |
| 利益剰余金         |                        |                        |
| 利益準備金         | 167,363                | 231,993                |
| その他利益剰余金      |                        |                        |
| 繰越利益剰余金       | 2,546,174              | 3,134,550              |
| 利益剰余金合計       | 2,713,538              | 3,366,543              |
| 自己株式          | 200,051                | -                      |
| 株主資本合計        | 12,744,134             | 13,597,191             |
| 純資産合計         | 12,744,134             | 13,597,191             |
| 負債純資産合計       | 23,086,402             | 25,359,380             |

## 【損益計算書】

(単位：千円)

|                | 前事業年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当事業年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|----------------|---|---|
| 営業収益           |   |   |
| ロイヤリティー収入      | 1 5,206,960                             | 1 5,223,953                             |
| 不動産賃貸収入        | 1 482,059                               | 1 453,995                               |
| 営業収益合計         | 5,689,019                               | 5,677,948                               |
| 営業費用           |   |   |
| ロイヤリティー原価      | 1 15,803                                | 1 15,010                                |
| 研究開発費          | 1 5,425,730                             | 1 5,225,600                             |
| 不動産賃貸原価        | 415,895                                 | 377,705                                 |
| その他            | 1, 2 772,494                            | 1, 2 728,065                            |
| 営業費用合計         | 6,629,924                               | 6,346,381                               |
| 営業損失( )        | 940,905                                 | 668,433                                 |
| 営業外収益          |   |   |
| 受取利息           | 1 6,313                                 | 1 13,319                                |
| 受取配当金          | 1 1,765,332                             | 1 2,652,026                             |
| 為替差益           | 239,215                                 | -                                       |
| 貸倒引当金戻入額       | -                                       | 363,245                                 |
| その他            | 1 75,868                                | 1 181,031                               |
| 営業外収益合計        | 2,086,729                               | 3,209,622                               |
| 営業外費用          |   |   |
| 支払利息           | 41,797                                  | 38,197                                  |
| 貸倒引当金繰入額       | 497,460                                 | -                                       |
| 為替差損           | -                                       | 122,021                                 |
| 関係会社事業損失引当金繰入額 | 630,325                                 | 598,376                                 |
| その他            | 48,561                                  | 3,892                                   |
| 営業外費用合計        | 1,218,145                               | 762,487                                 |
| 経常利益又は経常損失( )  | 72,321                                  | 1,778,701                               |
| 特別利益           |   |   |
| 固定資産売却益        | 1,660,443                               | -                                       |
| その他            | 1,351                                   | -                                       |
| 特別利益合計         | 1,661,795                               | -                                       |
| 特別損失           |   |   |
| 関係会社株式評価損      | -                                       | 26,873                                  |
| 関係会社貸倒損失       | -                                       | 143,867                                 |
| 特別損失合計         | -                                       | 170,741                                 |
| 税引前当期純利益       | 1,589,473                               | 1,607,960                               |
| 法人税、住民税及び事業税   | 640,920                                 | 301,205                                 |
| 法人税等調整額        | 641,338                                 | 79,987                                  |
| 法人税等合計         | 418                                     | 381,193                                 |
| 当期純利益          | 1,589,055                               | 1,989,153                               |

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

(単位：千円)

|                         | 株主資本       |         |         |         |                     |           |
|-------------------------|------------|---------|---------|---------|---------------------|-----------|
|                         | 資本金        | 資本剰余金   |         | 利益剰余金   |                     |           |
|                         |            | 資本準備金   | 資本剰余金合計 | 利益準備金   | その他利益剰余金<br>繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計   |
| 当期首残高                   | 10,019,161 | 211,486 | 211,486 | 156,390 | 1,077,823           | 1,234,213 |
| 当期変動額                   |            |         |         |         |                     |           |
| 剰余金の配当                  |            |         |         |         | 109,731             | 109,731   |
| 利益準備金の積立                |            |         |         | 10,973  | 10,973              |           |
| 当期純利益                   |            |         |         |         | 1,589,055           | 1,589,055 |
| 自己株式の取得                 |            |         |         |         |                     |           |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額（純額） |            |         |         |         |                     |           |
| 当期変動額合計                 | -          | -       | -       | 10,973  | 1,468,351           | 1,479,324 |
| 当期末残高                   | 10,019,161 | 211,486 | 211,486 | 167,363 | 2,546,174           | 2,713,538 |

|                         | 株主資本    |            | 純資産合計      |
|-------------------------|---------|------------|------------|
|                         | 自己株式    | 株主資本合計     |            |
| 当期首残高                   | 42      | 11,464,818 | 11,464,818 |
| 当期変動額                   |         |            |            |
| 剰余金の配当                  |         | 109,731    | 109,731    |
| 利益準備金の積立                |         | -          | -          |
| 当期純利益                   |         | 1,589,055  | 1,589,055  |
| 自己株式の取得                 | 200,008 | 200,008    | 200,008    |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額（純額） |         |            | -          |
| 当期変動額合計                 | 200,008 | 1,279,315  | 1,279,315  |
| 当期末残高                   | 200,051 | 12,744,134 | 12,744,134 |

当事業年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

(単位：千円)

|                         | 株主資本       |         |         |         |                     |           |
|-------------------------|------------|---------|---------|---------|---------------------|-----------|
|                         | 資本金        | 資本剰余金   |         | 利益剰余金   |                     |           |
|                         |            | 資本準備金   | 資本剰余金合計 | 利益準備金   | その他利益剰余金<br>繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計   |
| 当期首残高                   | 10,019,161 | 211,486 | 211,486 | 167,363 | 2,546,174           | 2,713,538 |
| 当期変動額                   |            |         |         |         |                     |           |
| 剰余金の配当                  |            |         |         |         | 646,294             | 646,294   |
| 利益準備金の積立                |            |         |         | 64,629  | 64,629              |           |
| 当期純利益                   |            |         |         |         | 1,989,153           | 1,989,153 |
| 自己株式の取得                 |            |         |         |         |                     |           |
| 自己株式の消却                 |            |         |         |         | 689,853             | 689,853   |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額（純額） |            |         |         |         |                     |           |
| 当期変動額合計                 | -          | -       | -       | 64,629  | 588,376             | 653,005   |
| 当期末残高                   | 10,019,161 | 211,486 | 211,486 | 231,993 | 3,134,550           | 3,366,543 |

|                         | 株主資本    |            | 純資産合計      |
|-------------------------|---------|------------|------------|
|                         | 自己株式    | 株主資本合計     |            |
| 当期首残高                   | 200,051 | 12,744,134 | 12,744,134 |
| 当期変動額                   |         |            |            |
| 剰余金の配当                  |         | 646,294    | 646,294    |
| 利益準備金の積立                |         | -          | -          |
| 当期純利益                   |         | 1,989,153  | 1,989,153  |
| 自己株式の取得                 | 489,801 | 489,801    | 489,801    |
| 自己株式の消却                 | 689,853 | -          | -          |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額（純額） |         |            | -          |
| 当期変動額合計                 | 200,051 | 853,056    | 853,056    |
| 当期末残高                   | -       | 13,597,191 | 13,597,191 |

## 【注記事項】

## (重要な会計方針)

## 1 資産の評価基準及び評価方法

## (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

    其他有価証券    市場価格のない株式等    移動平均法による原価法  
    子会社株式及び関連会社株式    移動平均法による原価法

## (2) デリバティブの評価基準及び評価方法

    時価法

## 2 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

    定率法によっております。

    ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

    主な耐用年数

        建物（3年～38年）

        構築物（10年～15年）

        工具、器具及び備品（3年～20年）

## (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

    自社利用のソフトウェア

    社内における見込利用期間（3年又は5年）に基づく定額法によっております。

## (3) リース資産

    所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

    自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

    所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

    リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## 3 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

    外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 4 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

    債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

    従業員に対して支給する賞与に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

## (3) 退職給付引当金

    従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

    退職給付見込額の期間帰属方法

    退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

    数理計算上の差異の費用処理方法

    数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数により、発生翌事業年度から損益処理することとしております。

## (4) 関係会社事業損失引当金

    子会社に対する将来の損失に備えるため、損失見込額を計上しております。

## (5) 債務保証損失引当金

    関係会社への債務保証に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案して損失負担見込額を計上しております。

## 5 ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

|       |                   |
|-------|-------------------|
| ヘッジ手段 | 金利スワップ<br>為替予約取引  |
| ヘッジ対象 | 借入金の利息<br>外貨建金銭債務 |

### (3) ヘッジ方針

当社の市場リスク管理要領に基づき、外貨建取引の為替変動リスクを回避する目的で必要な範囲内で為替予約取引を行っております。また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

### (4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ有効性の評価は、原則としてヘッジ取引開始時点から有効性評価時点までの期間において、ヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

## 6 収益及び費用の計上基準

### (1) ロイヤリティ収入

当社の知的財産に関するライセンスを含む製品を販売することにより生じるロイヤリティ収入が生じています。ロイヤリティ収入は、ライセンス先の関係会社の売上高に基づいて生じるものであり、ライセンス先の関係会社において該当製品が販売された時点で収益を認識しています。

### (2) 不動産収入

不動産収入は、関係会社に対する不動産賃貸に関わるものです。当該不動産の賃貸による収益は、リース取引に関する会計基準に従い、賃貸借期間にわたって収益を認識しております。

## 7 その他財務諸表作成のための重要な事項

### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

### (2) グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

## (重要な会計上の見積り)

## 繰延税金資産の回収可能性

## (1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(千円)

|        | 前事業年度<br>(2024年12月31日) | 当事業年度<br>(2025年12月31日) |
|--------|------------------------|------------------------|
| 繰延税金資産 | 14,025                 | 94,012                 |

## (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産の回収可能性は、将来の税金負担額を軽減する効果を有するかどうかで判断しております。当該判断は、収益力及びタックス・プランニングに基づく一時差異等加減算前課税所得の充分性により判断しております。

一時差異等加減算前課税所得の見積りは、経営者によって承認された連結予算を基礎として経営環境等が当社の業績へ及ぼす影響等を勘案し、回収可能と判断した見積可能期間で算定しております。その結果、将来回収が見込まれないと判断した繰延税金資産については、評価性引当額として取り崩しております。

当該連結予算について、売上高においては受注状況や商談金額、費用においては過去の実績及び人員計画等を勘案し、為替レートを想定した上で純利益を見積もっております。

当該見積り及び当該仮定について、将来の不確実な経済条件の変動及び為替変動等により見直しが必要となった場合、翌事業年度の財務諸表において認識する繰延税金資産及び法人税等調整額の金額に重要な影響を与える可能性があります。

## (表示方法の変更)

前事業年度において、「流動負債」の「その他」に含めて表示しておりました「関係会社立替債務」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替を行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「その他」1,158,003千円は、「関係会社立替債務」994,358千円、「その他」163,645千円として組み替えております。

## (貸借対照表関係)

## 1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

|        | 前事業年度<br>(2024年12月31日) | 当事業年度<br>(2025年12月31日) |
|--------|------------------------|------------------------|
| 短期金銭債権 | 2,896,231千円            | 1,197,392千円            |
| 短期金銭債務 | 383,740千円              | 482,521千円              |

## 2 保証債務

|   | 前事業年度<br>(2024年12月31日)      | 当事業年度<br>(2025年12月31日)   |
|---|-----------------------------|--|
| Allied Telesis, Inc.<br>リース契約に対する債務保証                         | 2,079,824千円<br>(13,148千USD) | Allied Telesis, Inc.<br>リース契約に対する債務保証<br>1,651,883千円<br>(10,551千USD)                   |
| Allied Telesis International<br>(Asia)Pte.Ltd.<br>借入金に関する債務保証 | 173,207千円<br>(1,095千USD)    | Allied Telesis International<br>(Asia)Pte.Ltd.<br>借入金に関する債務保証<br>63,406千円<br>(405千USD) |
| Allied Telesis (Hong Kong)<br>Ltd.<br>借入金に関する債務保証             | 31,636千円<br>(200千USD)       | Allied Telesis (Hong Kong)<br>Ltd.<br>借入金に関する債務保証<br>- 千円<br>( - 千USD)                 |
| アライドテレシス株式会社<br>割賦契約に対する債務保証                                  | 46,926千円                    | アライドテレシス株式会社<br>割賦契約に対する債務保証<br>- 千円   |
| 債務保証損失引当金   | 137,070千円                   | 債務保証損失引当金<br>- 千円  |
| 計   | 2,194,523千円                 | 計<br>1,715,290千円   |

## (損益計算書関係)

## 1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高

|           | 前事業年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当事業年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|-----------|---|---|
| ロイヤリティ収入  | 5,206,960千円                             | 5,223,953千円                             |
| 不動産賃貸収入   | 482,059千円                               | 453,995千円                               |
| ロイヤリティ原価  | 15,803千円                                | 15,010千円                                |
| 研究開発費     | 5,398,458千円                             | 5,198,328千円                             |
| その他営業費用   | 21,127千円                                | 20,542千円                                |
| 営業取引以外の収益 | 1,840,090千円                             | 2,693,727千円                             |

## 2 その他の営業費用（一般管理費）の主な費目及び金額は次のとおりであります。

|          | 前事業年度<br>(自 2024年1月1日<br>至 2024年12月31日) | 当事業年度<br>(自 2025年1月1日<br>至 2025年12月31日) |
|----------|---|---|
| 役員報酬     | 239,400千円                               | 239,400千円                               |
| 給料手当     | 51,615千円                                | 39,094千円                                |
| 賞与       | 4,439千円                                 | 6,293千円                                 |
| 賞与引当金繰入額 | 3,198千円                                 | 8,483千円                                 |
| 報酬手当     | 134,773千円                               | 110,208千円                               |
| 地代家賃     | 80,549千円                                | 92,565千円                                |
| 減価償却費    | 12,479千円                                | 1,568千円                                 |

## (有価証券関係)

## 前事業年度（2024年12月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式10,771,765千円）は、市場価格のない株式等のため、子会社株式の時価を記載しておりません。

## 当事業年度（2025年12月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式10,744,891千円）は、市場価格のない株式等のため、子会社株式の時価を記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産の発生的主要原因別の内訳

|                       | 前事業年度<br>(2024年12月31日) | 当事業年度<br>(2025年12月31日) |
|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 繰延税金資産                |                        |                        |
| 試験研究費                 | 23,660千円               | 32,951千円               |
| 繰越欠損金等                | 269,508千円              | 289,868千円              |
| 投資有価証券評価損             | 15,636千円               | 16,095千円               |
| 貸倒引当金                 | 411,515千円              | 309,105千円              |
| 関係会社事業損失引当金           | 1,324,819千円            | 1,550,704千円            |
| 債務保証損失引当金             | 41,971千円               | - 千円                   |
| 関係会社株式評価損             | 4,093,110千円            | 4,221,280千円            |
| 賞与引当金                 | 12,422千円               | 15,873千円               |
| 退職給付引当金               | 4,421千円                | 13,283千円               |
| 減損損失                  | 40,172千円               | 40,753千円               |
| その他                   | 17,433千円               | 37,903千円               |
| 繰延税金資産 小計             | 6,254,673千円            | 6,527,821千円            |
| 税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額    | 269,508千円              | 289,868千円              |
| 将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 | 5,971,139千円            | 6,143,939千円            |
| 評価性引当額 小計             | 6,240,647千円            | 6,433,808千円            |
| 繰延税金資産 合計             | 14,025千円               | 94,012千円               |

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

|                     | 前事業年度<br>(2024年12月31日) | 当事業年度<br>(2025年12月31日) |
|---------------------|------------------------|------------------------|
| 法定実効税率              | 30.6%                  | 30.6%                  |
| (調整)                |                        |                        |
| 永久差異(交際費等)          | 7.2%                   | 0.6%                   |
| 永久差異(連結子会社受取配当金)    | 33.2%                  | 49.6%                  |
| 試験研究費の税額控除に係る通算税効果額 | 0.7%                   | 9.2%                   |
| 住民税均等割等             | 0.1%                   | 0.0%                   |
| 外国税額                | - %                    | 0.8%                   |
| 国外源泉税額              | 2.0%                   | 2.0%                   |
| 子会社株式の投資簿価修正        | 3.1%                   | - %                    |
| 繰越欠損金の減少            | 1.6%                   | 0.8%                   |
| 税率変更による影響額          | - %                    | 10.8%                  |
| 評価性引当の増減            | 11.9%                  | 12.0%                  |
| その他                 | 1.2%                   | 0.3%                   |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率   | 0.0%                   | 23.7%                  |

## 3 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

## 4 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年1月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

この税率変更による影響はありません。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」

に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(ストック・オプション(新株予約権)の発行)

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(自己株式の取得)

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略して  
おります。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

| 資産の種類     | 当期首残高<br>(千円) | 当期増加額<br>(千円) | 当期減少額<br>(千円) | 当期償却額<br>(千円) | 当期末残高<br>(千円) | 減価償却累<br>計額(千円) | 期末取得価<br>額(千円) |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|----------------|
| 有形固定資産    |               |               |               |               |               |                 |                |
| 建物        | 101,234       | 2,017         | -             | 13,699        | 89,552        | 84,819          | 174,371        |
| 構築物       | -             | -             | -             | -             | -             | 2,962           | 2,962          |
| 機械及び装置    | 1,312         | -             | -             | 328           | 984           | 1,015           | 2,000          |
| 工具、器具及び備品 | 11,454        | -             | -             | 4,577         | 6,876         | 37,304          | 44,181         |
| 土地        | 63,125        | -             | -             | -             | 63,125        | -               | 63,125         |
| 有形固定資産計   | 177,126       | 2,017         | -             | 18,605        | 160,538       | 126,101         | 286,640        |
| 無形固定資産    |               |               |               |               |               |                 |                |
| ソフトウェア    | 50,453        | -             | -             | 14,596        | 35,857        |                 |                |
| その他       | 337           | -             | -             | 51            | 285           |                 |                |
| 無形固定資産計   | 50,790        | -             | -             | 14,648        | 36,142        |                 |                |

## 【引当金明細表】

| 区分          | 当期首残高<br>(千円) | 当期増加額<br>(千円) | 当期減少額<br>(千円) | 当期末残高<br>(千円) |
|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 貸倒引当金       | 1,343,942     | -             | 363,245       | 980,696       |
| 賞与引当金       | 33,936        | 42,420        | 33,936        | 42,420        |
| 関係会社事業損失引当金 | 4,326,648     | 598,376       | -             | 4,925,024     |
| 債務保証損失引当金   | 137,070       | -             | 137,070       | -             |

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

|   |   |
|---|---|
| 事業年度  | 1月1日から12月31日まで  |
| 定時株主総会  | 3月中   |
| 基準日   | 12月31日  |
| 剰余金の配当の基準日                                    | 6月30日、12月31日  |
| 1単元の株式数                                       | 100株  |
| 単元未満株式の買取り<br>取扱場所<br>株主名簿管理人<br>取次所<br>買取手数料 | (特別口座)<br>東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部<br>(特別口座)<br>東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社<br>-<br>無料                                   |
| 公告掲載方法  | 電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、産経新聞に掲載する方法により行う。<br>公告掲載URL <a href="https://www.at-global.com">https://www.at-global.com</a> |
| 株主に対する特典                                      | 該当事項はありません。   |

(注) 当社は定款において単元未満株主の権利を制限しており、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- 募集株式又は募集新株予約権の割当を受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第38期（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日） 2025年3月28日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

2025年3月28日関東財務局長に提出

#### (3) 半期報告書及び確認書

第39期中（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日） 2025年8月14日関東財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

2025年3月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

2025年11月17日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）の規定に基づく臨時報告書であります。

2026年2月12日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（届出を要しない株券等又は新株予約権証券等の発行）の規定に基づく臨時報告書であります。

#### (5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自2025年3月1日 至2025年3月31日）2025年4月4日関東財務局長に提出

報告期間（自2025年4月1日 至2025年4月30日）2025年5月8日関東財務局長に提出

報告期間（自2025年5月1日 至2025年5月31日）2025年6月3日関東財務局長に提出

報告期間（自2025年9月1日 至2025年9月30日）2025年10月2日関東財務局長に提出

報告期間（自2025年10月1日 至2025年10月31日）2025年11月5日関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年3月27日

アライドテレシスホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 浅井 則彦

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 村山 拓

## &lt; 連結財務諸表監査 &gt;

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアライドテレシスホールディングス株式会社の2025年1月1日から2025年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アライドテレシスホールディングス株式会社及び連結子会社の2025年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

| 繰延税金資産の回収可能性   |
|--|
| 監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由   |
| <p>アライドテレシスホールディングス株式会社（以下、会社）は、2025年12月31日現在、連結貸借対照表上、繰延税金資産を2,095,039千円（総資産の4.30%）計上している。そのうち、アライドテレシスホールディングス株式会社は、169,522千円（総資産の0.35%）を計上し、連結子会社のアライドテレシス株式会社は、466,279千円（総資産の0.96%）を計上している。いずれの会社もグループ通算制度を適用している。</p> <p>グループ通算制度を適用しているアライドテレシスホールディングス株式会社及びアライドテレシス株式会社の繰延税金資産の回収可能性は、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第26号）で示されている通算グループにおける会社分類の妥当性、通算グループ内の各会社における事業計画を基にした将来の課税所得の十分性、将来減算一時差異の将来解消見込年度のスケジュールに用いられる仮定に依存し、これらは経営者の重要な判断と見積りの要素を伴う。</p> <p>以上から、当監査法人は繰延税金資産の回収可能性を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>  |
| 監査上の対応   |
| <p>当監査法人は、当該繰延税金資産の回収可能性を検討するにあたり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>（１）内部統制の評価</p> <p>アライドテレシスホールディングス株式会社及びアライドテレシス株式会社において、会社分類の判定及び一時差異のスケジュールを含む繰延税金資産の計上プロセスに関連する内部統制の整備・運用状況の有効性を評価した。</p> <p>（２）繰延税金資産の回収可能性の検討</p> <p>当監査法人は主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」に従った会社分類について、業績及び課税所得の推移、税務上の欠損金が生じた要因、並びに事業計画等を勘案し、その妥当性を検討した。</li><li>・繰延税金資産の回収可能性に関する判断に利用される将来の課税所得の見積額について、その基礎となる経営者によって承認された通算グループ内の事業計画を検証した。</li></ul> <p>なお、事業計画の検証に当たり、アライドテレシスホールディングス株式会社及びアライドテレシス株式会社のそれぞれについて、過年度における事業計画と実績を比較して事業計画の見積りの精度を評価するとともに、主要なインプットを識別し、検討を行った。</p> <p>アライドテレシスホールディングス株式会社においては、事業計画の主要なインプットである子会社からのロイヤリティ収入について、その見積りに当たり考慮した事項を経営者へ質問を実施するとともに、ロイヤリティ収入の大部分を占めるアライドテレシス株式会社からのロイヤリティ収入に関しては、アライドテレシス株式会社の売上予算との整合性の検討及びロイヤリティ料率と契約書との突合を実施した。</p> <p>また、アライドテレシス株式会社においては、事業計画の主要なインプットである売上高及び関連コストについて、直近の案件パイプライン、受注残高、及び営業人員等のデータとの整合性を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・将来減算一時差異の解消見込年度のスケジュールの合理性を確かめるため、主要な仮定について経営者及び会社担当者へ質問を実施するとともに、関連する内部資料の閲覧、資料間の整合性を検討した。</li></ul> |

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、アライドテレシスホールディングス株式会社の2025年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、アライドテレシスホールディングス株式会社が2025年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

2026年3月27日

アライドテレシスホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 浅井 則彦

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 村山 拓

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアライドテレシスホールディングス株式会社の2025年1月1日から2025年12月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アライドテレシスホールディングス株式会社の2025年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

| 繰延税金資産の回収可能性  |                    |
|---|--------------------|
| 監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由  | 監査上の対応             |
| アライドテレシスホールディングス株式会社は、2025年12月31日現在、貸借対照表上、繰延税金資産を94,012千円（総資産の0.37%）計上している。監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由については、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「繰延税金資産の回収可能性」と実質的に同一の内容であるため、記載を省略している。 | 左記のとおりであり、記載を省略する。 |

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。